

令和3年度 国際総合科学群
教学 IR 実施報告書

目 次

第 1 章 令和 3 年度 教学 IR 取組概要

1. 令和 3 年度 教学 IR 検討ワーキング取組事項…………… 3
2. 令和 3 年度 教学 IR 検討ワーキング分析結果概要…………… 4

第 2 章 令和 3 年度 教学 IR 分析データ集

1. 入学から卒業までのアンケートをつないだ経時的な分析
 - (1) 令和 3 年度分析結果について…………… 6
 - (2) 各アンケートをつないだ分析…………… 7
2. 教学 IR 検討 WG における認証評価に向けた対応
 - (1) 令和 3 年度前期授業評価アンケートにおける
授業外学修時間の推移について …… 13
 - (2) 令和 3 年度前期科目における成績評価について…………… 34
 - (3) LMS ポートフォリオ機能 …………… 44
3. ALGS 学修行動比較調査の実施及び分析
 - (1) 2020 年度 ALGS 学修行動比較調査の
実施結果について…………… 45
 - (2) 全体結果梗概…………… 51
4. 教学 IR で挙げられた課題について…………… 53

令和3年度 国際総合科学群教学 IR 検討ワーキング取組事項

1 国際総合科学群教学 IR 検討ワーキング開催実績

- 第1回 令和3年7月21日
- 第2回 令和3年10月12日
- 第3回 令和3年12月23日
- 第4回 令和4年2月24日

2 国際総合科学群教学 IR 検討ワーキングメンバー（敬称略）

ワーキング長	立川 仁典
ワーキング長補佐	中條 祐介
国際教養学部	鈴木 伸治、宇野 二郎、山田 剛史
国際商学部	大澤 正俊、白石 小百合、吉永 崇
理学部	横山 崇、大関 泰裕、北 幸海
データサイエンス学部	汪 金芳、土屋 隆裕
事務局	田澤教育推進長、佐藤学術企画担当係長、佐々木学術企画担当

令和3年度 国際総合科学群教学 IR 検討ワーキング分析結果概要

1. 入学から卒業後までのアンケートをつないだ経時的な分析

<取組概要>

昨年度までに引き続き、「新入生アンケート」、「カリキュラム評価アンケート」、「卒業生アンケート」の3つのアンケートに国際総合科学部で特に重視する教育理念に関する共通の設問に対する回答結果について分析した。また、分析結果について、各種会議にて報告を行うとともに、結果を各学部教授会で報告・共有し、各学部におけるカリキュラム改善検討を支援した。

(分析内容)

- (1) 各アンケートをつないだ経時分析

<分析結果>

- (1) 過去3年間の分析結果はほとんど変わらず、入学時から卒後3年までの間で「課題発見・問題解決力」「グローバルな視野」「豊かな教養」「確かな専門性」が身に付いたという回答が減少している。
また、「グローバルな視野」については、卒後3年の回答が過去3年間の結果と比較して低下している。

2. 教学 IR 検討 WG における認証評価に向けた対応

<取組概要>

大学機関別認証評価受審に向け、平成30年度に設定した3つの観点について、解析及び課題解決に向けた検討を進めた。教学 IR 検討 WG にて解析した結果について各学部会議体にて報告を行うとともに、結果を各学部教授会で報告・共有し、各学部において各学部独自の課題が確認された。

(分析内容)

- (1) 令和3年度授業評価アンケートにおける授業外学修時間の推移
- (2) 令和3年度科目における成績評価
- (3) 学修成果の可視化検討

<分析結果>

- (1) 令和3年度の授業外学修時間について、過年度の結果と比較した結果、令和2年度にはオンライン授業の導入により授業外学修時間が増加していたが、今年度は昨年度よりも授業外学修時間が減少傾向であることがわかった。また、授業外学修時間が多い層と少ない層の差が開いていることがわかった。
- (2) 全科目を通じて、厳格かつ客観的に評価が行われていることが確認できた。語学関連科目においては、全面オンライン授業であった令和2年度と比較し

て、GP 平均値の低下が大きい科目があった。

- (3) 「学修成果の可視化」のために来年度から LMS に YCU 指標レーダーチャートを導入するため、レーダーチャート「各学部独自項目」の記載について検討するとともに、注釈を学部ごとに作成し、レーダーチャートの脇へ標記することとした。

3. ALCS 学修行動比較調査の実施及び分析

<取組概要>

学生データの効率的な収集及び他大学との比較のため、令和元年度より教学比較 IR コモンズに入り会いし、令和 3 年度も 1 年次、3 年次の学生に対しアンケート調査を実施した。令和 3 年度は令和 2 年度の調査結果について分析を実施し、各学部へ内容を報告・共有した。

(分析内容)

- (1) 令和 2 年度横浜市立大学 ALCS 学修行動比較調査

<分析結果>

- (1) 授業外学修時間については全体平均が 1 日あたり分 141 分（1 年生）、122 分（3 年生）だったのに対し、本学は 1 日あたり 111 分となっており全体平均より低い結果となっている。また、授業に関連しない学修時間においても全体平均が 1 日あたり 45 分（1 年生）、82 分（3 年生）だったのに対し、本学は 1 日あたり 87 分となっており全体平均より高い結果となっている。

4. 分析結果の報告

解析結果について各種会議にて報告・共有し、各学部におけるカリキュラム改善を支援した。

<報告・共有した会議体>

- ・教学 IR 検討ワーキング
- ・学長諮問会議
- ・各学部教授会

入学から卒業後までのアンケートをつないだ経時的な分析

令和3年度分析結果について

1 趣旨

平成30年度より、国際総合科学群教学IRでは、国際総合科学部で特に重視する教育理念に関して、入学時、卒業時、卒業3年に実施するアンケートに設置された共通設問の回答結果を分析し、経時的な変化を確認する取り組みを開始しました。経時的な分析について、今年度の解析を実施しましたので報告いたします。

2 分析対象データ

- ・ 新入生アンケート
実施期間：令和3年4月
回答数：722名
- ・ カリキュラム評価アンケート
実施期間：令和2年12月～令和3年2月
回答数：635名
- ・ 卒業生アンケート
実施期間：令和2年8月～令和2年11月
回答数：179名

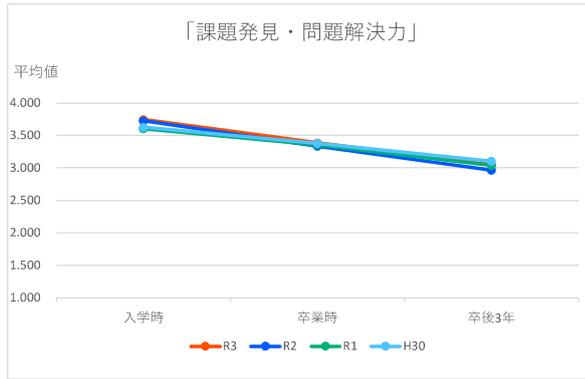
3 分析結果

次ページ参照

各アンケートをつないだ分析（国際総合科学群）

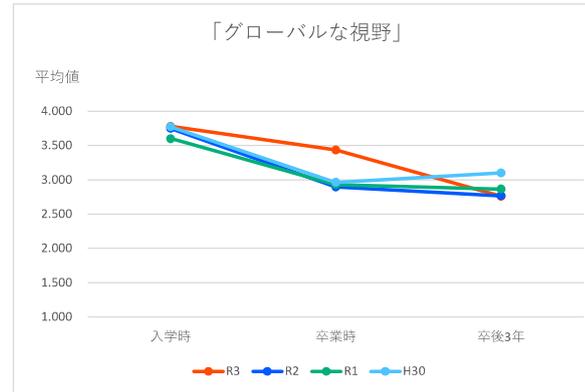
「課題発見・問題解決力」

	新入生		カリキュラム		卒業生	
	回答	割合 (%)	回答	割合 (%)	回答	割合 (%)
4	554	76.731	276	43.465	51	28.492
3	160	22.161	333	52.441	94	52.514
2	2	0.277	22	3.465	26	14.525
1	4	0.554	4	0.630	8	4.469
回答なし	2	0.277	0	0.000	0	0.000
総計	722		635		179	
平均	3.745		3.387		3.050	
R02年度平均	3.725		3.335		2.967	
R01年度平均	3.602		3.355		3.041	
H30年度平均	3.627		3.379		3.103	



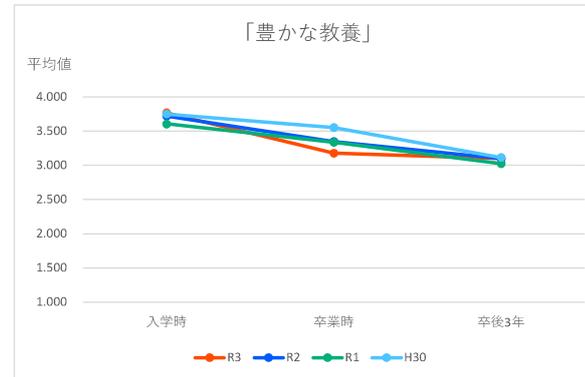
「グローバルな視野」

	新入生		カリキュラム		卒業生	
	回答	割合 (%)	回答	割合 (%)	回答	割合 (%)
4	583	80.748	313	49.291	38	21.229
3	122	16.898	290	45.669	75	41.899
2	15	2.078	28	4.409	51	28.492
1	1	0.139	4	0.630	15	8.380
回答なし	1	0.139	0	0.000	0	0.000
総計	722		635		179	
平均	3.780		3.436		2.76	
R02年度平均	3.75		2.896		2.767	
R01年度平均	3.602		2.93		2.865	
H30年度平均	3.774		2.963		3.103	



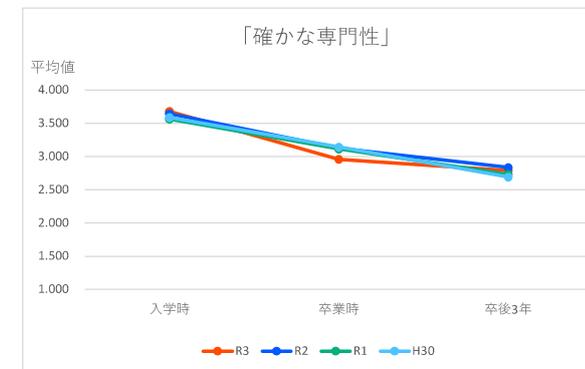
「豊かな教養」

	新入生		カリキュラム		卒業生	
	回答	割合 (%)	回答	割合 (%)	回答	割合 (%)
4	567	78.532	216	34.016	60	33.520
3	147	20.360	327	51.496	84	46.927
2	6	0.831	82	12.913	28	15.642
1	1	0.139	10	1.575	7	3.911
回答なし	1	0.001	0	0.000	0	0.000
総計	722		635		179	
平均	3.770		3.180		3.101	
R02年度平均	3.725		3.349		3.100	
R01年度平均	3.608		3.338		3.027	
H30年度平均	3.753		3.556		3.118	

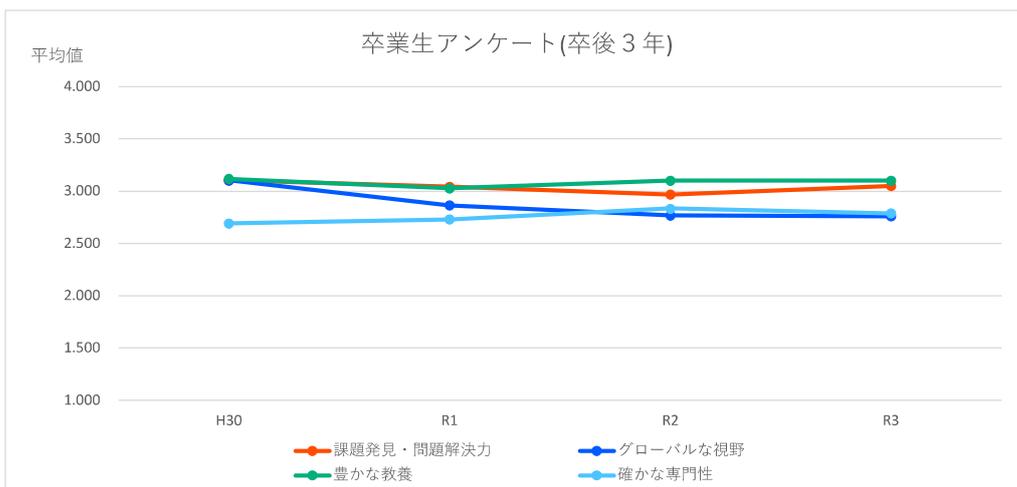
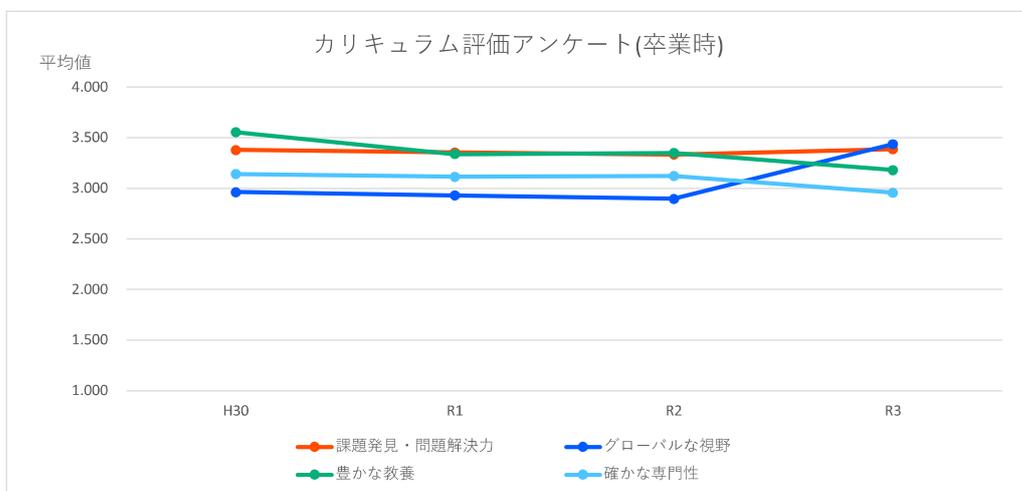
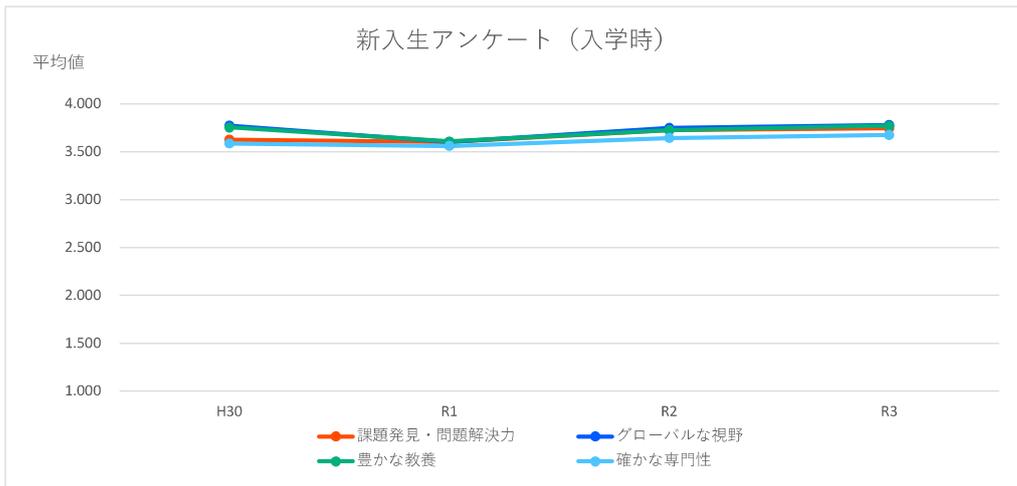


「確かな専門性」

	新入生		カリキュラム		卒業生	
	回答	割合 (%)	回答	割合 (%)	回答	割合 (%)
4	507	70.222	200	31.496	38	21.229
3	198	27.424	240	37.795	78	43.575
2	16	2.216	163	25.669	50	27.933
1	1	0.139	32	5.039	13	7.263
回答なし	0	0.000	0	0.000	0	0.000
総計	722		635		179	
平均	3.677		2.957		2.788	
R02年度平均	3.643		3.123		2.833	
R01年度平均	3.562		3.114		2.730	
H30年度平均	3.586		3.142		2.691	



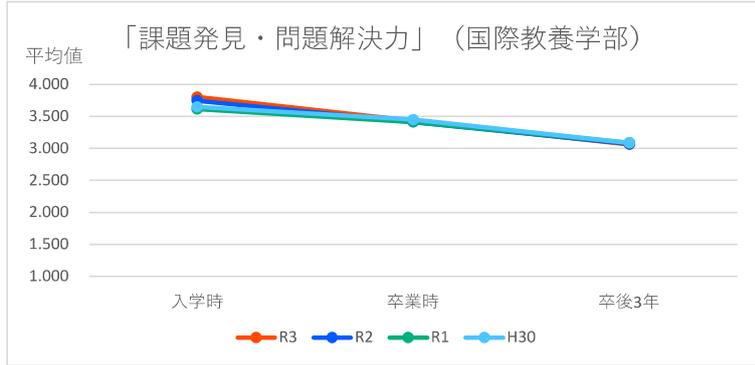
各アンケートをつないだ分析（国際総合科学群）



各アンケートをつないだ分析
 (『課題発見・問題解決力』 学部別解析結果)

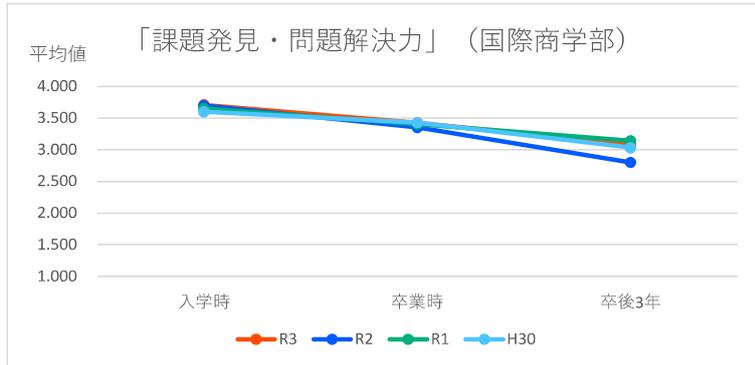
国際教養学部

	新入生	カリキュラム	卒業生
回答数	284	246	78
4	232	112	23
3	49	128	40
2	2	5	12
1	1	1	3
回答なし	0	0	0.000
平均	3.803	3.427	3.064
R02年度平均	3.747	3.413	3.071
R01年度平均	3.618	3.414	3.086
H30年度平均	3.649	3.450	3.088



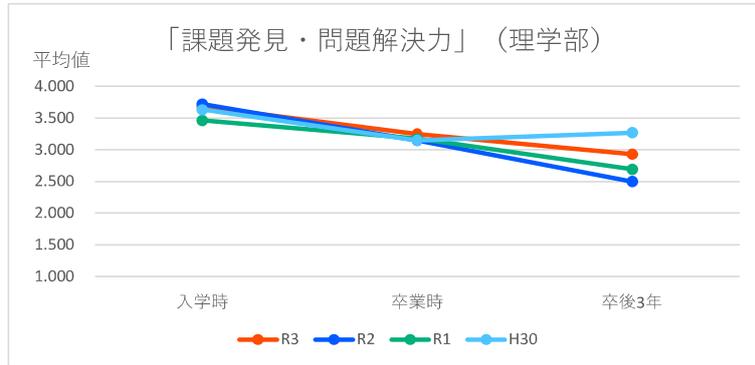
国際商学部

	新入生	カリキュラム	卒業生
回答数	257	253	72
4	192	116	20
3	61	129	40
2	0	7	10
1	22	1	2
回答なし	1	0	0
平均	3.708	3.423	3.083
R02年度平均	3.693	3.349	2.800
R01年度平均	3.649	3.404	3.141
H30年度平均	3.601	3.429	3.032



理学部

	新入生	カリキュラム	卒業生
回答数	119	136	29
4	81	48	8
3	38	76	14
2	0	10	4
1	0	2	3
回答なし	0	0	0
平均	3.681	3.250	2.931
R02年度平均	3.724	3.150	2.500
R01年度平均	3.463	3.178	2.692
H30年度平均	3.634	3.150	3.273



データサイエンス学部

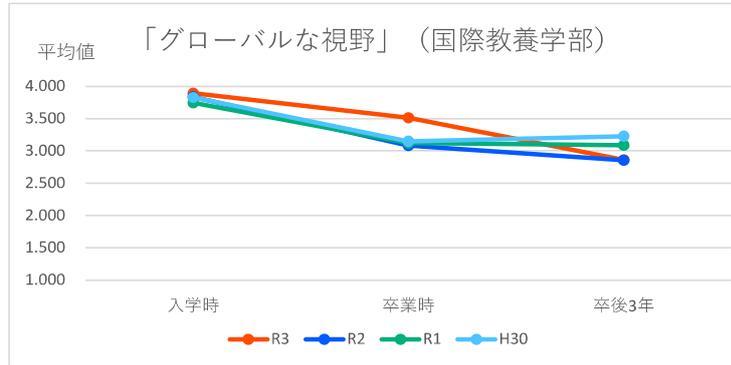
	新入生	カリキュラム	卒業生
回答数	62	回答	回答
4	49		
3	12		
2	0		
1	1		
回答なし	0		
平均	3.758		
R02年度平均	3.762		
R01年度平均	3.621		
H30年度平均			

※データサイエンス学部はH30年度新入生アンケート未実施

各アンケートをつないだ分析 (『グローバルな視野』 学部別解析結果)

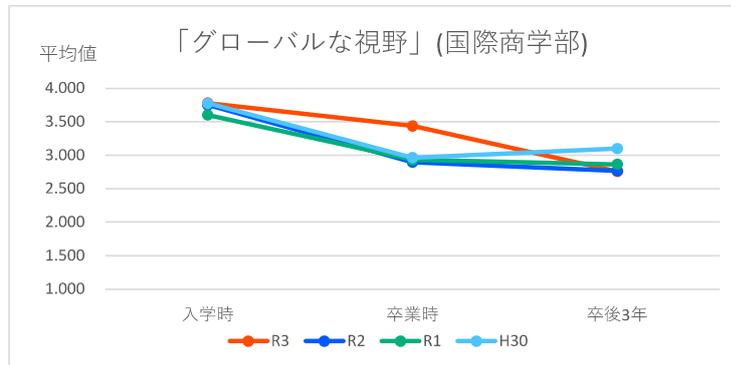
国際教養学部

	新入生	カリキュラム	卒業生
回答数	284	246	78
4	258	130	20
3	21	112	33
2	5	4	19
1	0	0	6
回答なし	0	0	0
平均	3.891	3.512	2.859
R02年度平均	3.835	3.083	2.857
R01年度平均	3.744	3.117	3.086
H30年度平均	3.826	3.146	3.224



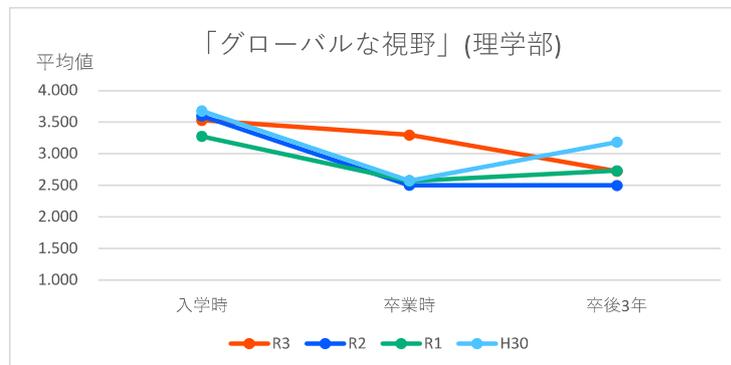
国際商学部

	新入生	カリキュラム	卒業生
回答数	257	253	72
4	223	125	10
3	30	116	32
2	2	10	26
1	1	2	4
回答なし	1	0	0
平均	3.840	3.439	2.667
R02年度平均	3.804	2.906	2.600
R01年度平均	3.768	2.951	2.719
H30年度平均	3.766	2.985	2.968



理学部

	新入生	カリキュラム	卒業生
回答数	119	136	29
4	68	58	8
3	46	62	10
2	5	14	6
1	0	2	5
回答なし	0	0	0
平均	3.529	3.294	2.724
R02年度平均	3.598	2.504	2.500
R01年度平均	3.276	2.568	2.731
H30年度平均	3.679	2.575	3.182



データサイエンス学部

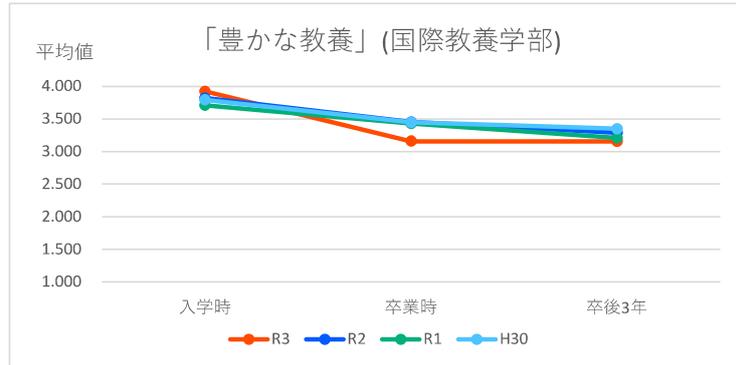
	新入生	カリキュラム	卒業生
回答数	62	回答	回答
4	34		
3	25		
2	3		
1	0		
回答なし	0		
平均	3.500		
R02年度平均	3.444		
R01年度平均	3.483		
H30年度平均			

※データサイエンス学部はH30年度新入生アンケート未実施

各アンケートをつないだ分析 (『豊かな教養』 学部別解析結果)

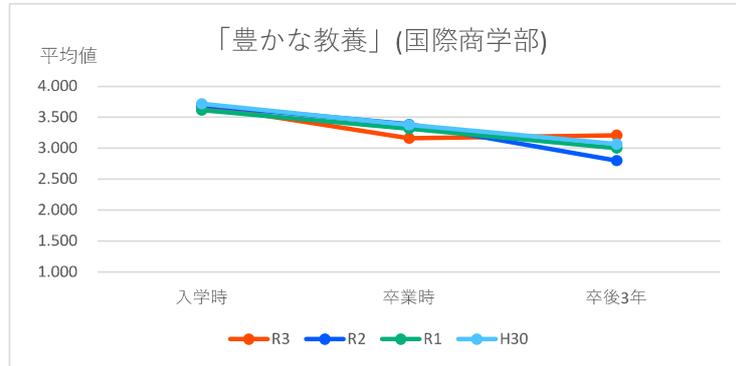
国際教養学部

	新入生	カリキュラム	卒業生
回答数	284	246	78
4	263	78	28
3	20	132	37
2	1	33	10
1	0	3	3
回答なし	0	0	0
平均	3.923	3.159	3.154
R02年度平均	3.821	3.449	3.286
R01年度平均	3.71	3.430	3.207
H30年度平均	3.793	3.447	3.348



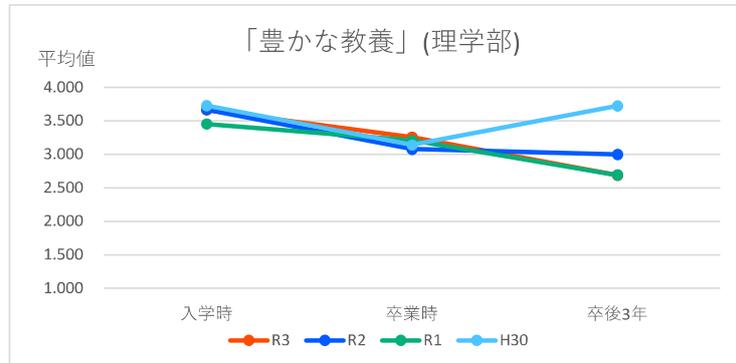
国際商学部

	新入生	カリキュラム	卒業生
回答数	257	253	72
4	185	87	26
3	66	123	37
2	4	39	7
1	1	4	2
回答なし	1	0	0
平均	3.685	3.158	3.208
R02年度平均	3.693	3.384	2.800
R01年度平均	3.613	3.318	3.000
H30年度平均	3.718	3.377	3.065



理学部

	新入生	カリキュラム	卒業生
回答数	119	136	29
4	79	51	6
3	40	72	10
2	0	10	11
1	0	3	2
回答なし	0	0	0
平均	3.664	3.257	2.69
R02年度平均	3.669	3.079	3.000
R01年度平均	3.455	3.205	2.692
H30年度平均	3.731	3.142	3.727



データサイエンス学部

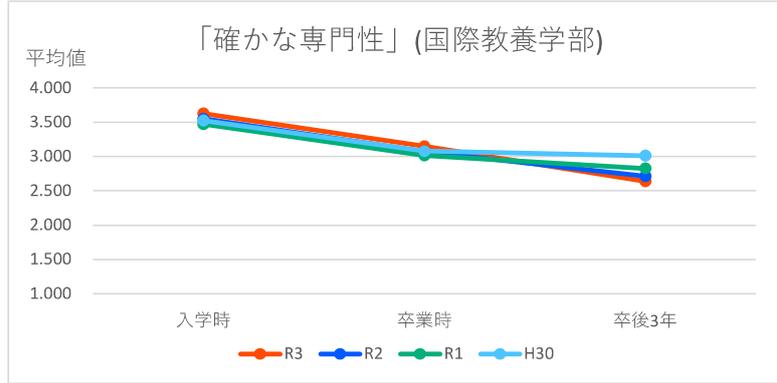
	新入生	カリキュラム	卒業生
回答数	62		
4	40		
3	21		
2	1		
1	0		
回答なし	0		
平均	3.629		
R02年度平均	3.540		
R01年度平均	3.431		
H30年度平均			

※データサイエンス学部はH30年度新入生アンケート未実施

各アンケートをつないだ分析 (『確かな専門性』 学部別解析結果)

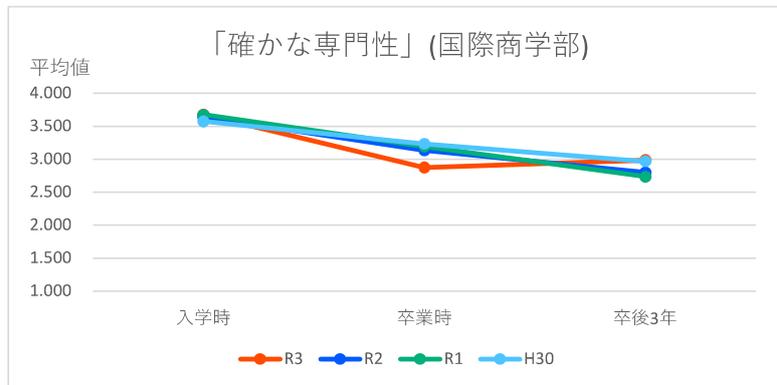
国際教養学部

	新入生	カリキュラム	卒業生
回答数	284	246	78
4	189	101	12
3	86	92	32
2	8	43	28
1	1	10	6
回答なし	0	0	0
平均	3.630	3.154	2.641
R02年度平均	3.551	3.071	2.714
R01年度平均	3.474	3.016	2.828
H30年度平均	3.527	3.080	3.015



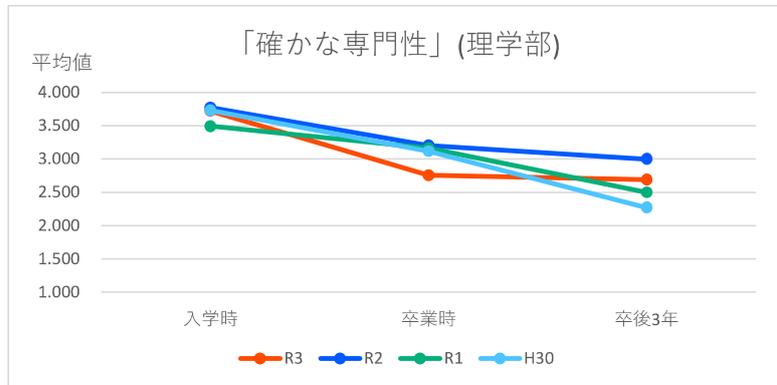
国際商学部

	新入生	カリキュラム	卒業生
回答数	257	253	72
4	180	66	19
3	71	100	36
2	6	76	14
1	0	11	3
回答なし	0	0	0
平均	3.677	2.874	2.986
R02年度平均	3.637	3.133	2.800
R01年度平均	3.675	3.193	2.734
H30年度平均	3.575	3.234	2.968



理学部

	新入生	カリキュラム	卒業生
回答数	119	136	29
4	87	33	7
3	31	48	10
2	1	44	8
1	0	11	4
回答なし	0	0	0
平均	3.723	2.757	2.690
R02年度平均	3.772	3.205	3.000
R01年度平均	3.493	3.164	2.500
H30年度平均	3.731	3.118	2.273



データサイエンス学部

	新入生	カリキュラム	卒業生
回答数	62		
4	51		
3	10		
2	1		
1	0		
回答なし	0		
平均	3.806		
R02年度平均			
R01年度平均			
H30年度平均			

※データサイエンス学部はH30年度新入生アンケート未実施

令和3年度前期授業評価アンケートにおける授業外学修時間の推移について

1. 趣旨

令和3年度前期授業の授業評価アンケートの結果をもとに、オンライン授業導入前後及びハイブリッド授業移行後の授業外学修時間の推移について、報告します。

2. 分析対象データ

今回の分析については、平成30年度から令和3年度の授業評価アンケートデータを使用しました。

・ 分析対象の設問

問：授業時間以外に学修を一週間にどのくらいしましたか。

選択肢：1. ほとんどしなかった 2. 1時間未満 3. 1時間以上2時間未満

4. 2時間以上3時間未満 5. 3時間以上4時間未満 6. 4時間以上

※選択肢6は令和2年度より追加

・ アンケート回答率

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
学部 講義全体 (DAT科目を除く)	74.2%	74.3%	35.7%	33.5%
学部 演習全体	85.3%	84.5%	40.9%	47.8%
データサイエンス学部系講義 (科目コード先頭3桁がDATの科目)	78.9%	78.8%	37.5%	25.1%

・ アンケート実施科目数

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
学部 講義全体 (DAT科目を除く)	283	270	308	247
学部 演習全体	368	379	324	444
データサイエンス学部系講義 (科目コード先頭3桁がDATの科目)	7	15	39	58

3. 授業外学修時間の推移

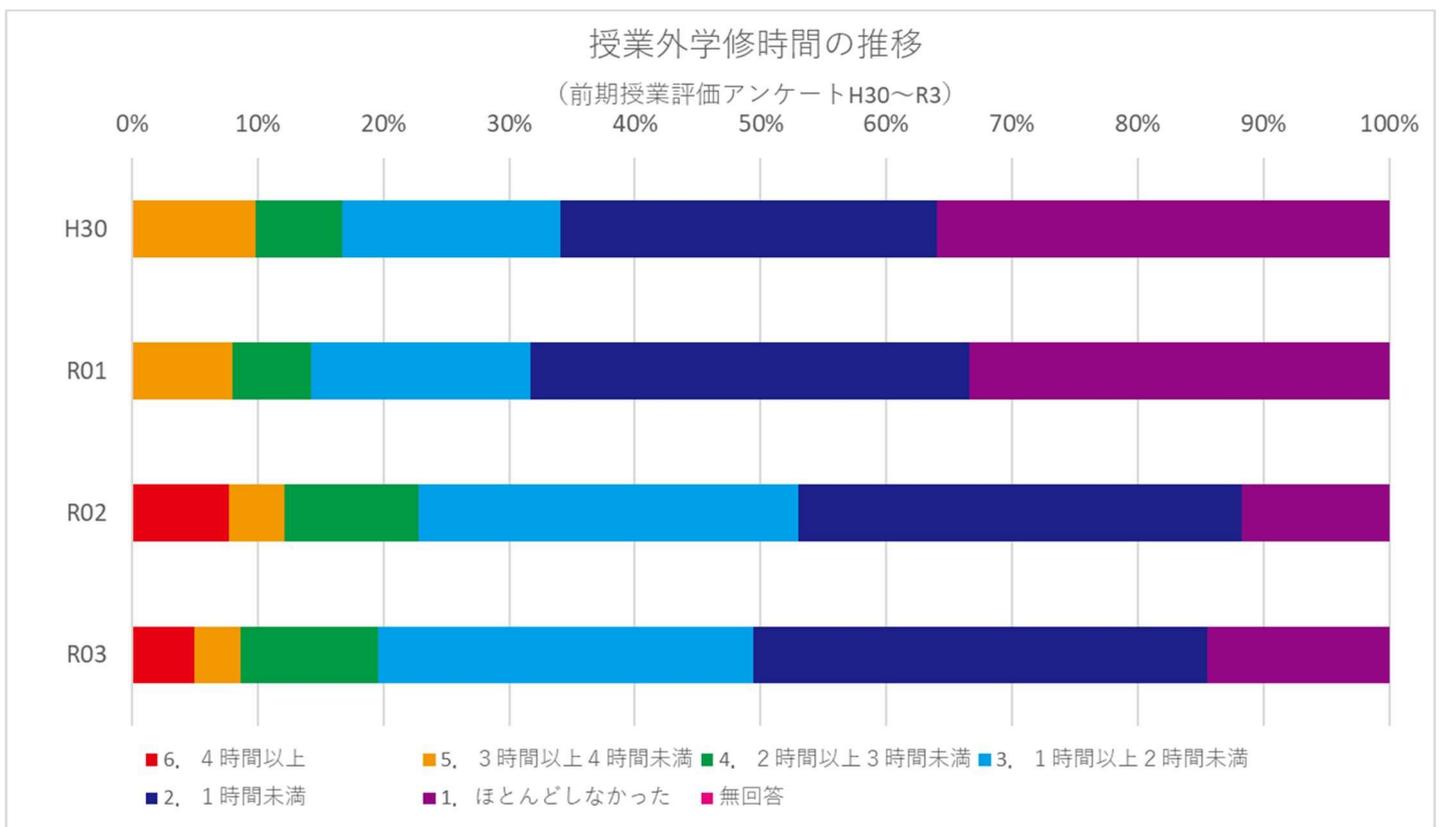
(1) 回答数比較

① 全体について

4年分の回答数について、それぞれの年度で占める割合を確認した。令和2年度に「3. 1時間以上2時間未満」より上位の回答割合が増加したものの、令和3年度には微減している。

	6. 4時間以上	5. 3時間以上 4時間未満	4. 2時間以上 3時間未満	3. 1時間以上 2時間未満	2. 1時間未満	1. ほとんどし なかった	計
H30		2021 件	1419 件	3558 件	6153 件	7388 件	20539 件
		9.84%	6.91%	17.32%	29.96%	35.97%	100.00%
R01		1572 件	1251 件	3446 件	6903 件	6613 件	19785 件
		7.95%	6.32%	17.42%	34.89%	33.42%	100.00%
R02	645 件	548 件	1409 件	3479 件	3657 件	1219 件	10957 件
	7.75%	4.34%	10.68%	30.26%	35.24%	11.74%	100.00%
R03	433 件	318 件	949 件	2588 件	3134 件	1256 件	8678 件
	4.99%	3.66%	10.94%	29.82%	36.11%	14.47%	100.00%

※令和2年度について、選択肢6及び5の合算値は「1193件（10.89%）」、
令和3年度は「751件（8.65%）」、



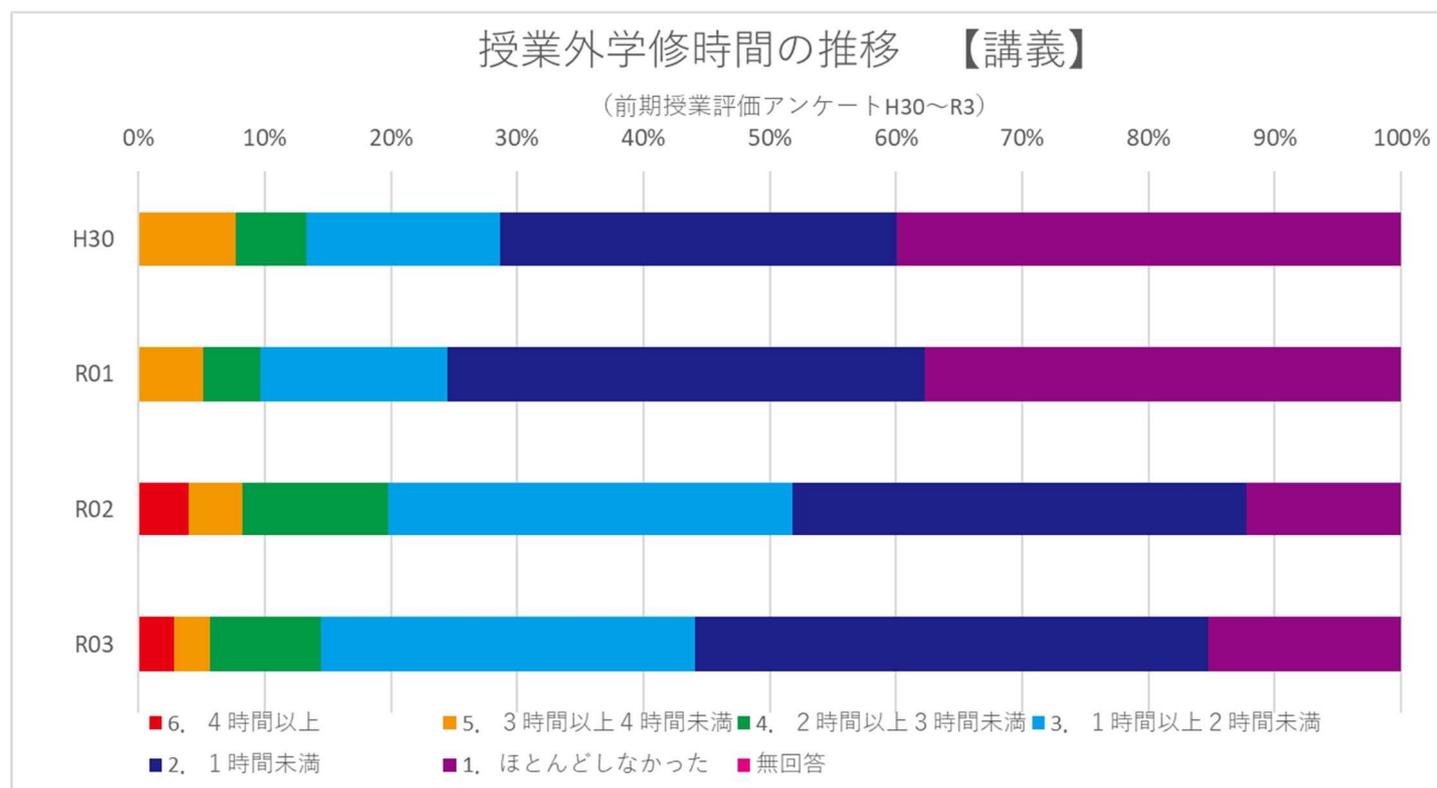
② 講義について

令和2年度の授業外学修時間について、「①全体について」と概ね同じ割合の変化となった。

	6. 4時間以上	5. 3時間以上 4時間未満	4. 2時間以上 3時間未満	3. 1時間以上 2時間未満	2. 1時間未満	1. ほとんどし なかった	計
H30 講義		1224 件	884 件	2431 件	4976 件	6326 件	15841 件
		7.73%	5.58%	15.35%	31.41%	39.93%	100.00%
R01 講義		775 件	696 件	2253 件	5754 件	5747 件	15225 件
		5.09%	4.57%	14.80%	37.79%	37.75%	100.00%
R02 講義	354 件	376 件	1017 件	2823 件	3168 件	1081 件	8819 件
	4.01%	4.26%	11.53%	32.01%	35.92%	12.26%	100.00%
R03 講義	183 件	187 件	572 件	1927 件	2643 件	993 件	6322 件
	2.81%	2.87%	8.79%	29.62%	40.63%	15.27%	100.00%

※令和2年度について、選択肢6及び5の合算値は「730件（8.28%）」

※令和3年度は「370件（5.85%）」

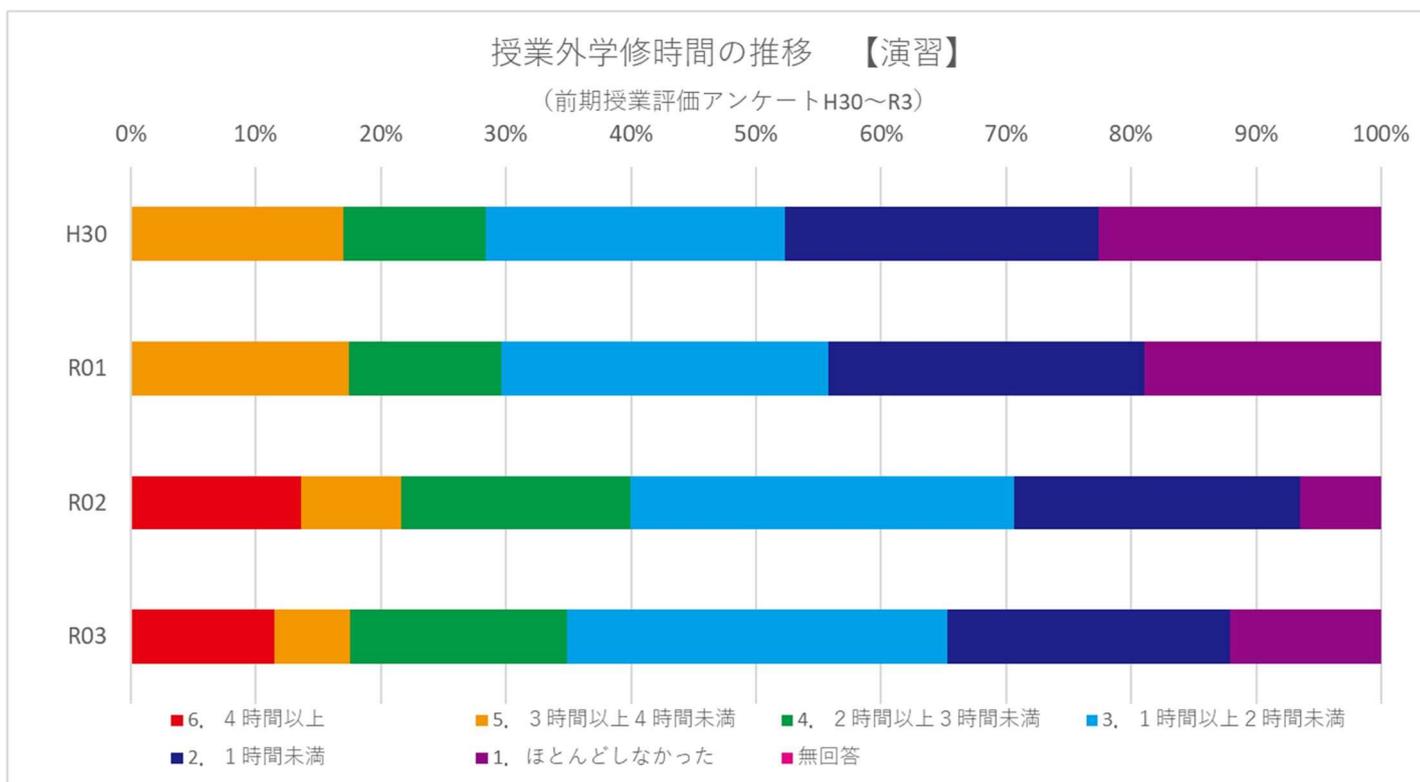


③ 演習について

令和2年度に「1. ほとんどしなかった」の割合が非常に低くなったものの、令和3年度ではその割合が増加している。

	6. 4時間以上	5. 3時間以上 4時間未満	4. 2時間以上 3時間未満	3. 1時間以上 2時間未満	2. 1時間未満	1. ほとんどし なかった	計
H30 演習		797 件	535 件	1127 件	1177 件	1062 件	4698 件
		16.96%	11.39%	23.99%	25.05%	22.61%	100.00%
R01 演習		797 件	555 件	1193 件	1149 件	866 件	4560 件
		17.48%	12.17%	26.16%	25.20%	18.99%	100.00%
R02 演習	291 件	172 件	392 件	656 件	489 件	138 件	2138 件
	13.61%	8.04%	18.33%	30.68%	22.87%	6.45%	100.00%
R03 演習	250 件	131 件	377 件	661 件	491 件	263 件	2173 件
	11.50%	6.03%	17.35%	30.42%	22.60%	12.10%	100.00%

※令和2年度について、選択肢6及び5の合算値は「463件（21.66%）」、
令和3年度は「381件（17.53%）」



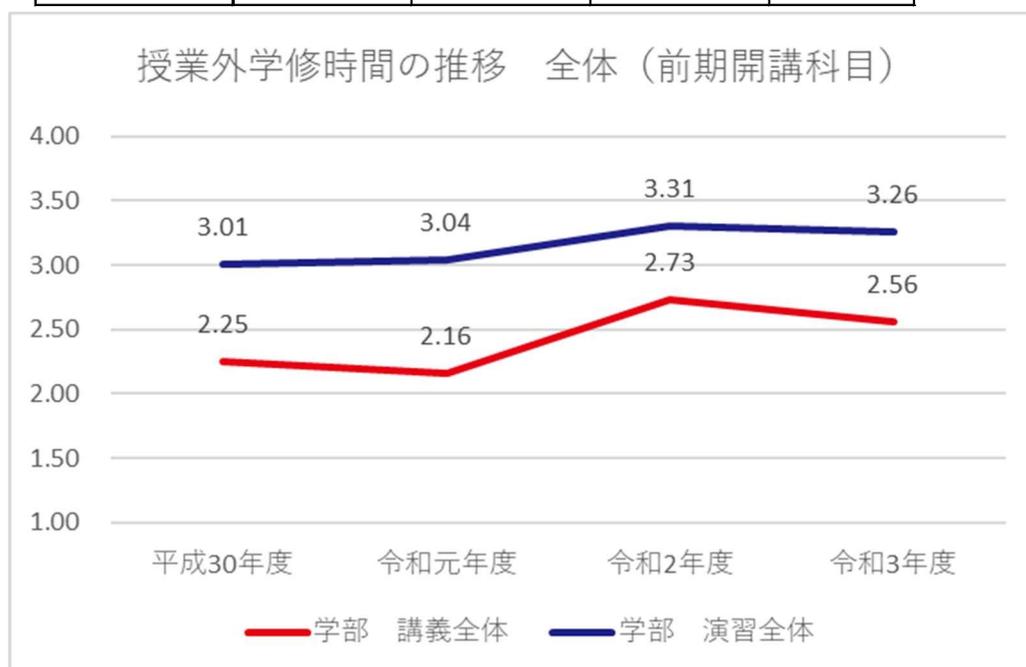
(2) 平均比較

過去4年の回答の平均値を比較した。なお、令和2年度、令和3年度について、「6. 4時間以上」は「5. 3時間以上4時間未満」とみなして算出しています。

① 全体について

回答の平均値について分析した結果、対面授業を実施した令和元年度までと比較し、令和2年度には講義科目及び演習科目について授業外学修時間が増加したが、令和3年度には微減している。

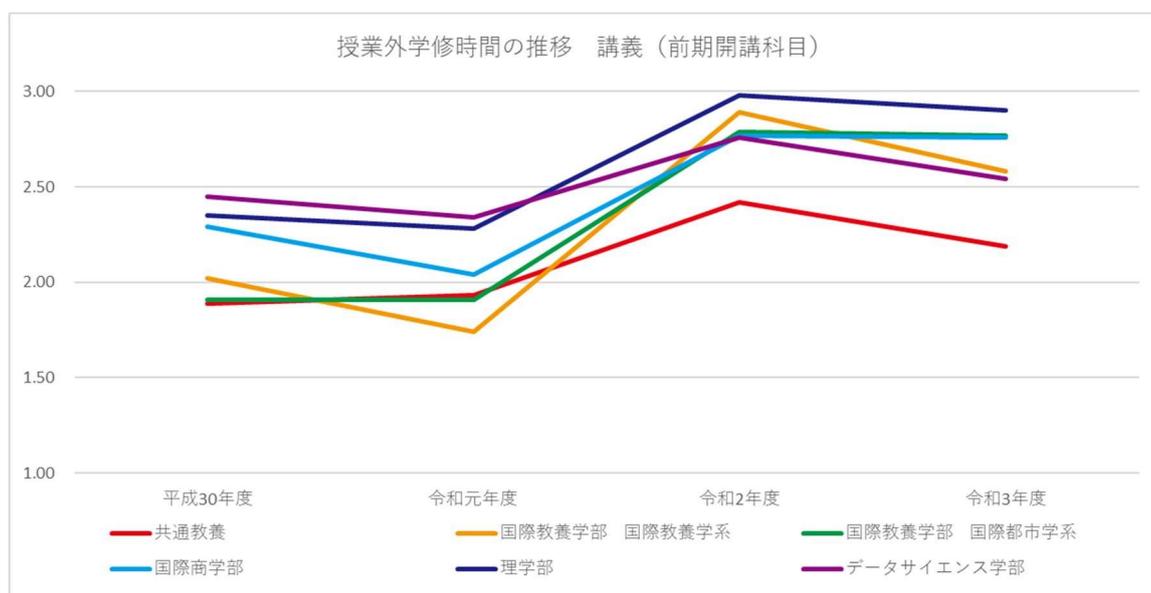
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
学部 講義全体	2.25	2.16	2.73	2.56
学部 演習全体	3.01	3.04	3.31	3.26



② 講義について

回答の平均値について分析した結果、対面授業を実施した令和元年度までと比較し、令和2年度には共通教養及び全学部について授業外学修時間が増加したものの、令和3年度には微減している傾向がみられる。

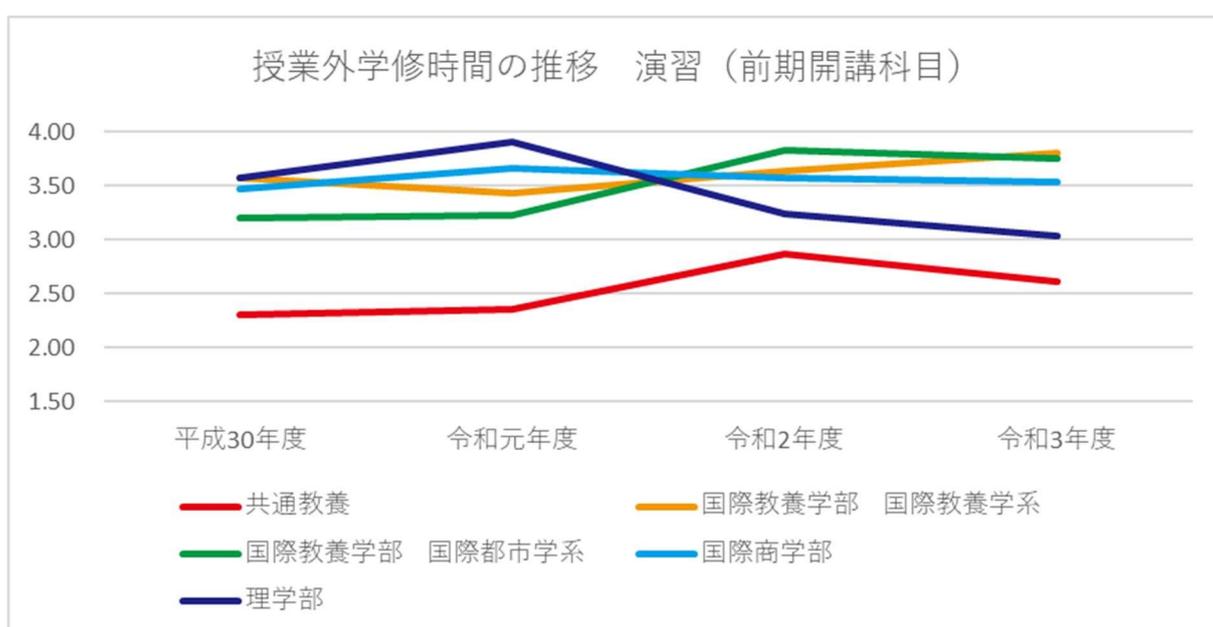
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
共通教養	1.89	1.93	2.42	2.19
国際教養学部 国際教養学系	2.02	1.74	2.89	2.58
国際教養学部 国際都市学系	1.91	1.91	2.79	2.77
国際商学部	2.29	2.04	2.77	2.76
理学部	2.35	2.28	2.98	2.90
データサイエンス学部	2.45	2.34	2.76	2.54



③ 演習について

回答の平均値について分析した結果、対面授業を実施した令和元年度までと比較し、令和2年度は国際商学部及び理学部以外の学部について授業外学修時間が増加した。
令和3年度は国際教養学部国際教養学系を除いて、授業外学修時間が減少している。

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
共通教養	2.31	2.35	2.87	2.61
国際教養学部 国際教養学系	3.57	3.43	3.64	3.80
国際教養学部 国際都市学系	3.20	3.23	3.83	3.76
国際商学部	3.47	3.66	3.57	3.53
理学部	3.57	3.91	3.24	3.03



④ 科目グループごとの経年比較について

資料2：科目グループごとの経年比較表 参照

4. 今後の方針について

(1) オンライン授業による授業外学修時間の変化について

令和2年度よりオンライン授業を導入したことによって、ほとんどの科目で授業外学修時間がオンライン授業導入前と比較して増加しましたが、令和3年度前期では、令和2年度前期と比較して授業外学修時間は減少傾向となりました。減少の要因として、「①履修者数や科目の内容によって対面授業とする授業が増えたこと」、「②対面授業の再開に伴い、成績評価方法をレポートから試験に戻したこと」等が挙げられます。

(2) 学部通則に規定されている1単位あたりの学修時間について

大学設置基準に基づき、本学の各学部の通則において、単位については下記のように規定されており、増加後の授業外学修時間でも規程上十分な授業時間が確保できているとは言えない状況であることから、授業外学修時間数を向上させる取組は継続すべきと考えられます。

(単位)

第4条 授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準によることを原則とする。

- (1) 講義科目及び演習科目については、15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習、実技及び語学科目については、30時間の授業をもって1単位とする。

(3) 今後の方針

令和2年度よりオンライン授業を導入したことにより、令和2年度以前に比べて授業外学修時間は増加しているものの、今後、学生同士のつながりや人間形成も重視し、対面授業を再開する科目も多いことから、授業外学修時間数の変化については引き続き分析を行い、授業外学修時間を確保する方法の検討を進めます。

5. 資料

- (1) 令和3年度前期授業評価アンケート設問項目
- (2) 科目グループごとの平均値経年比較表

授業評価アンケート設問

Q1. この授業にどの程度出席していましたか。

ほぼ 100%/80%以上/60%以上 80%未満/60%未満/ほとんど欠席

Q2. 授業時間以外に学修を一週間にどのくらいしましたか。

4 時間以上/3 時間以上 4 時間未満/2 時間以上 3 時間未満/1 時間以上 2 時間未満
/1 時間未満/ほとんどしなかった

<以下、Q3～Q17 の選択肢は共通>

① そう思う ② どちらかといえばそう思う ③ どちらともいえない

④ どちらかといえば思わない ⑤ そう思わない

Q3. この授業に積極的に参加していましたか。

Q4. 事前に Web シラバスを十分に確認しましたか。

Q5. 教科書や資料等は授業の理解に役立ちましたか。

Q6. 教員の声の大きさやスピードは適切でしたか。

Q7. シラバスにもとづいて授業の学習到達目標について説明がありましたか

Q8. 教員は授業の秩序を維持していましたか。

Q9. 教員は熱意をもって授業の指導に当たっていましたか。

Q10. 授業は定刻通り開始されていましたか。

Q11. 学習到達目標は達成できましたか。

Q12. この授業で知的好奇心が刺激されましたか。

Q13. 今後の勉学に役立つと思いますか。

Q14. 総合的に見て満足できる授業でしたか。

Q15. 教員独自の質問①

Q16. 教員独自の質問②

Q17. 教員独自の質問③

Q18. (自由記述) 特に良かった点

Q19. (自由記述) 改善すべき点、提案

Q20. (自由記述) 大学について意見や要望

Q21. この授業をオンラインで受講して、良かった点はありましたか。(複数回答可)

① 教員や受講者間のコミュニケーションがとりやすい

② 集中力が続きやすい

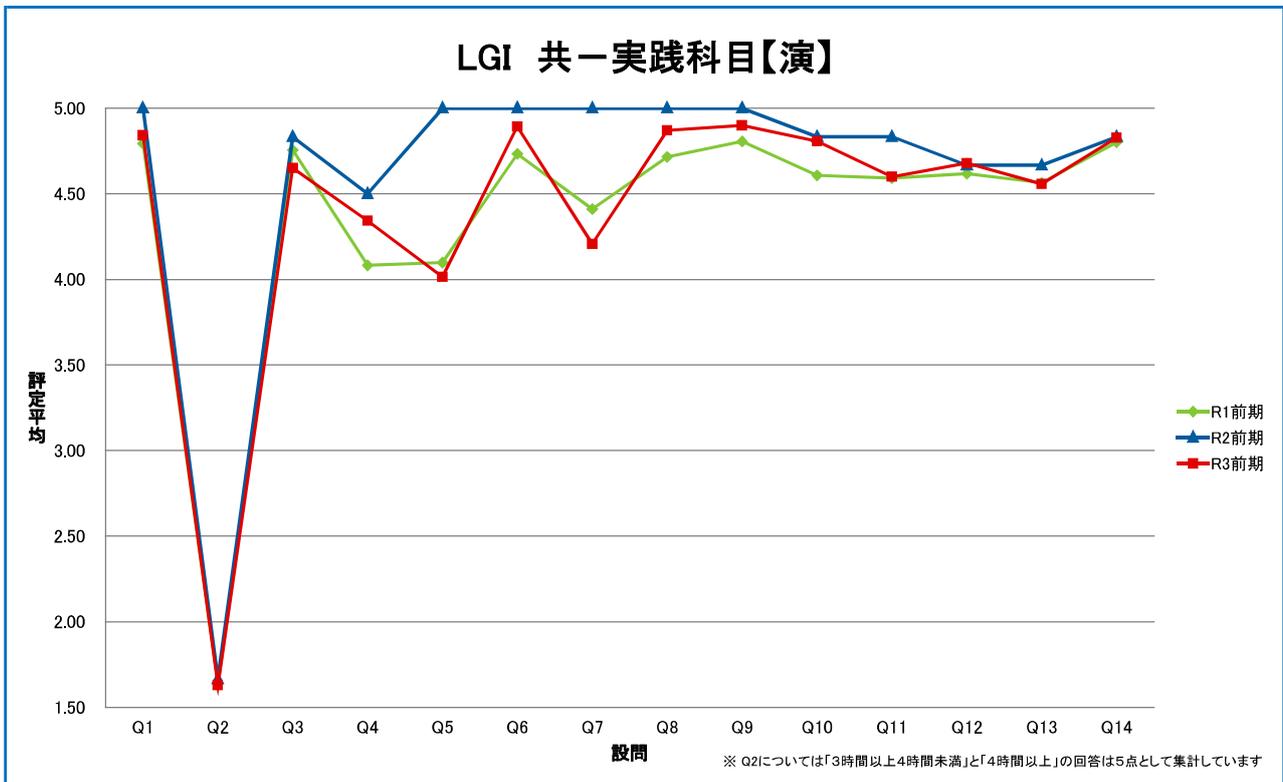
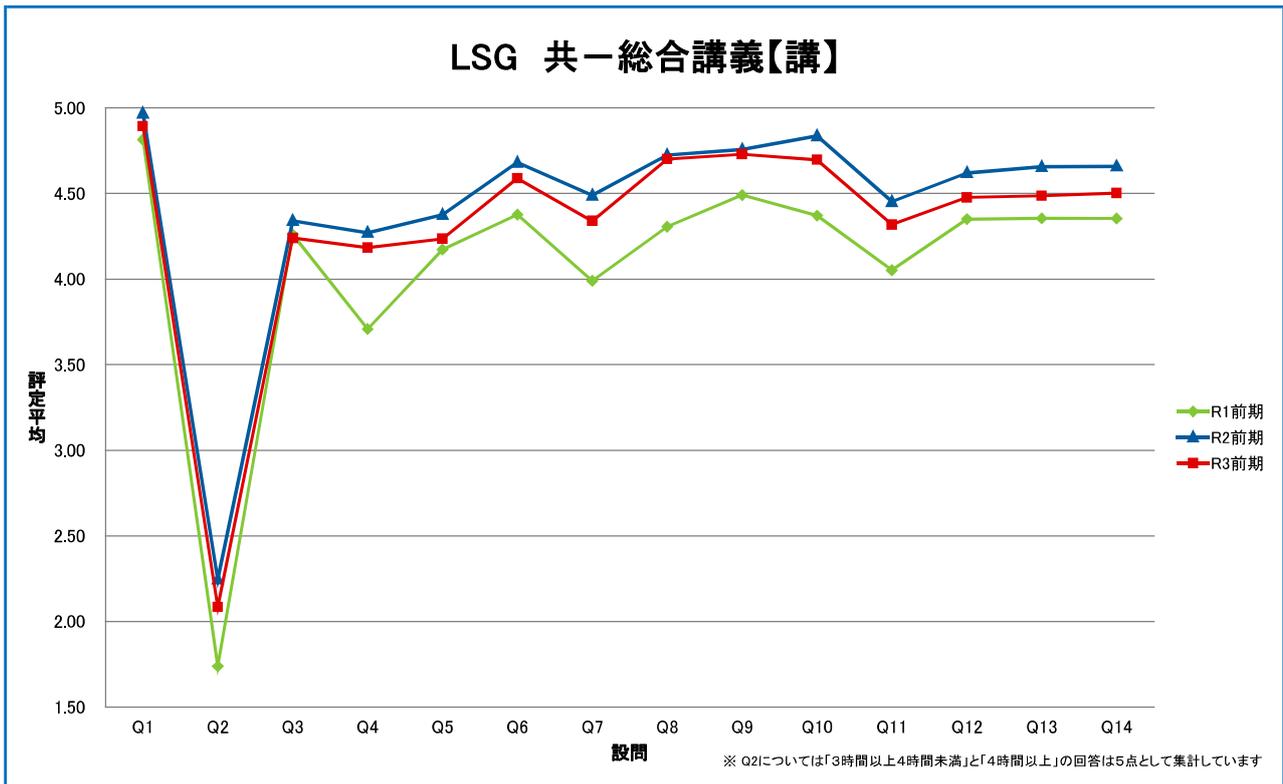
③ オンライン上の資料や動画により、効率的な予習復習ができた

④ 自分のペースで学修できる

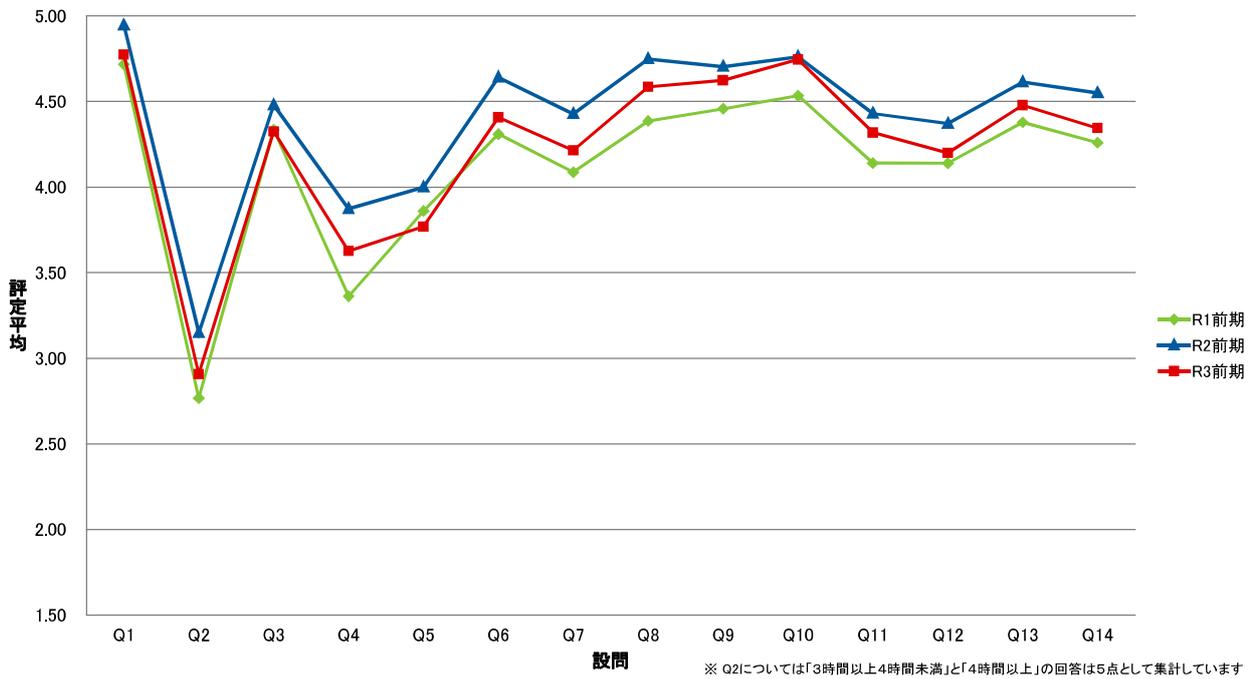
⑤ その他 (自由記述欄に記載してください)

Q22 この授業をオンラインで受講して、不安な点がありましたか。(複数回答可)

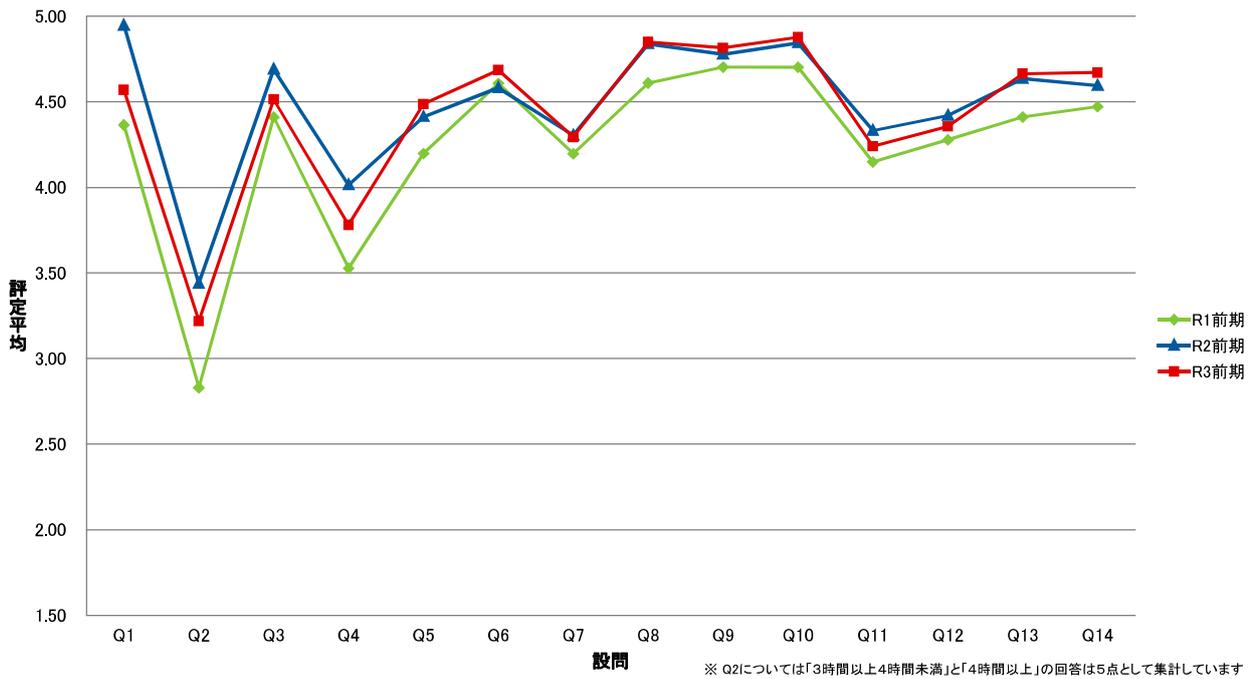
- ① 教員や受講者間のコミュニケーションがとりづらい
- ② 集中力が続かない
- ③ 講義に対する負担(課題等)が大きい
- ④ 学修のペースが掴みにくい
- ⑤ 通信環境等や設備面での不安
- ⑥ その他(自由記述欄に記載してください)



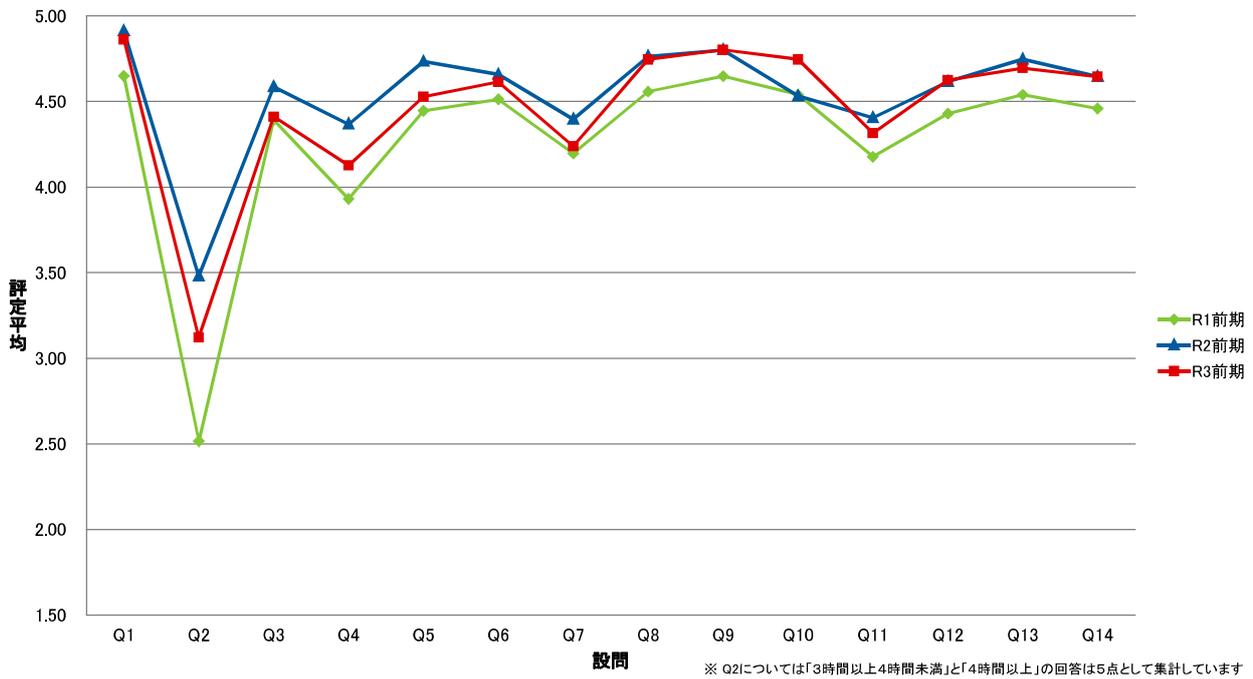
LKY 共一教養ゼミ【演】



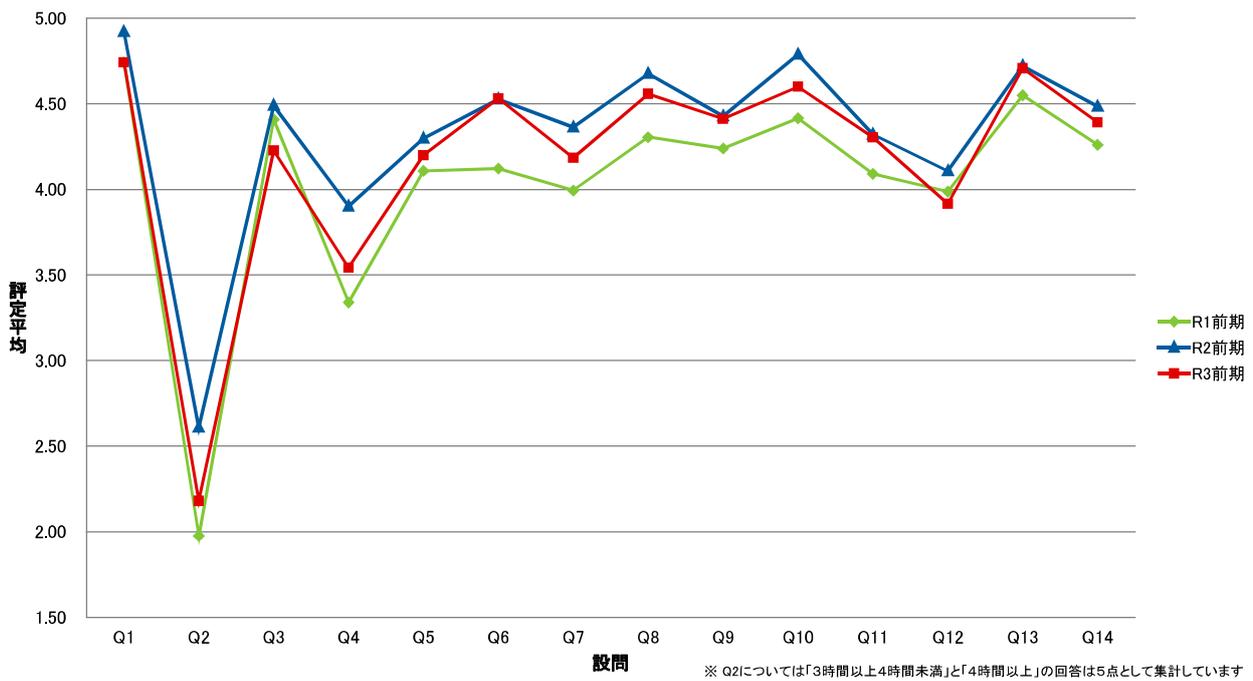
LPE 共一PE【演】



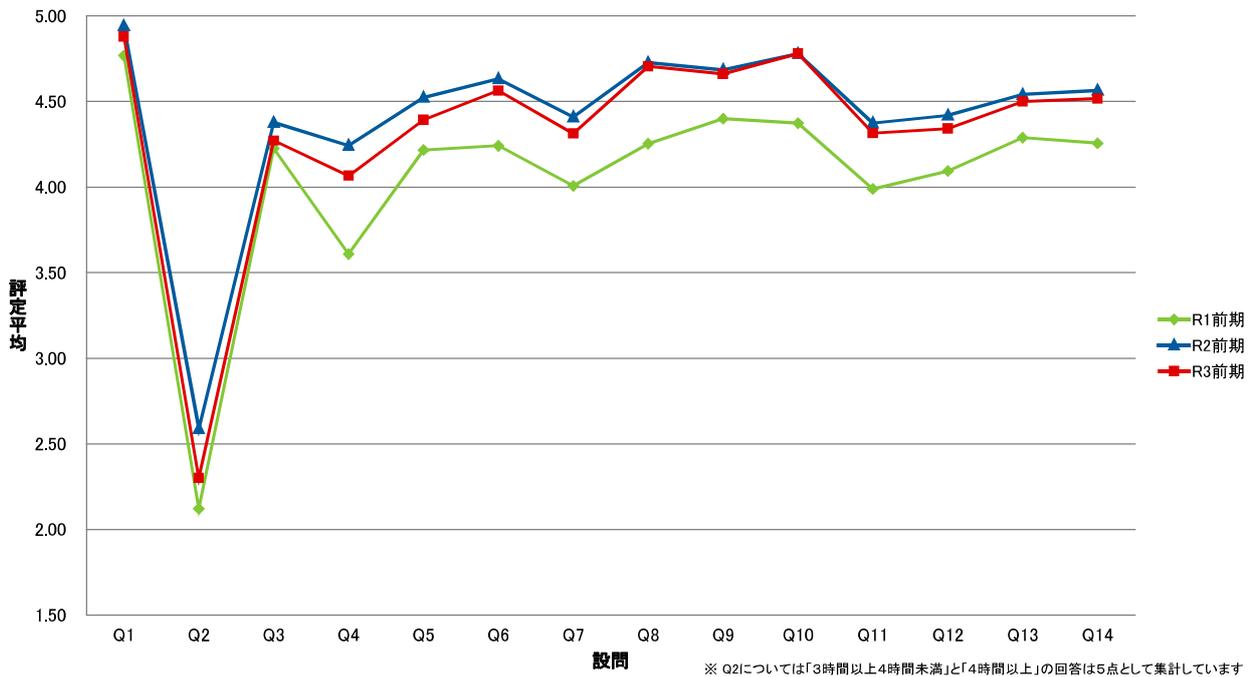
LGO 共一語学(PE)以外【演】



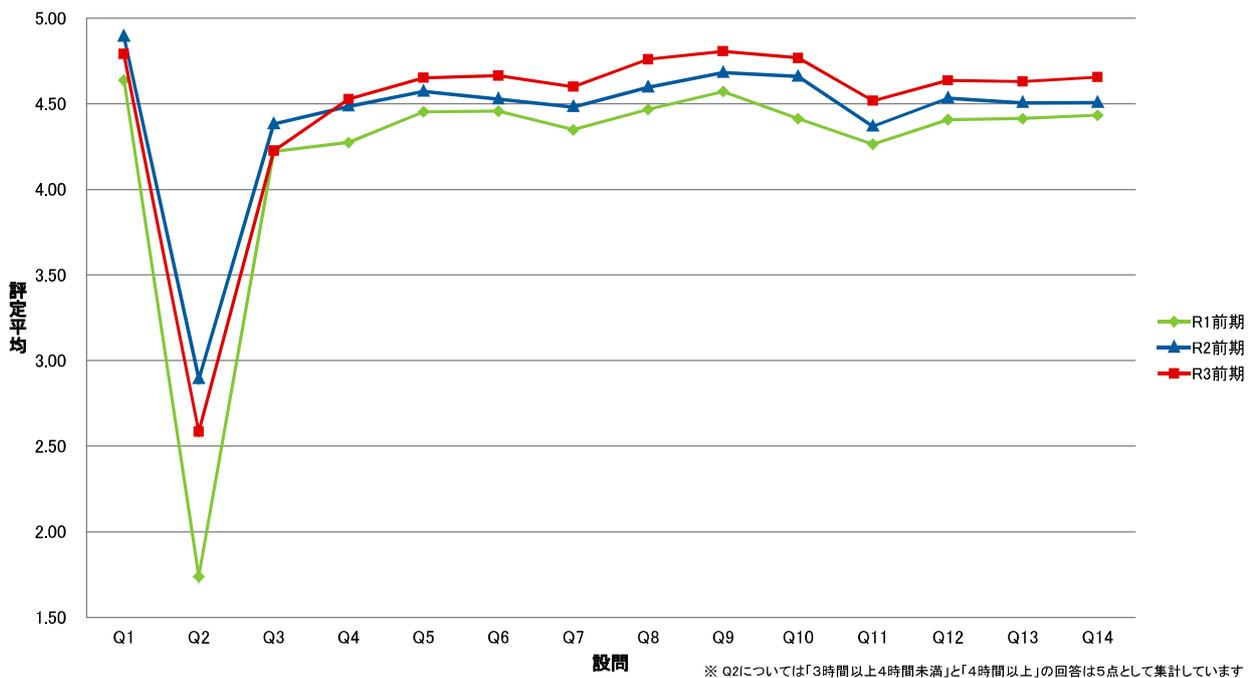
LJO 共一情報コミュニケーション【演】



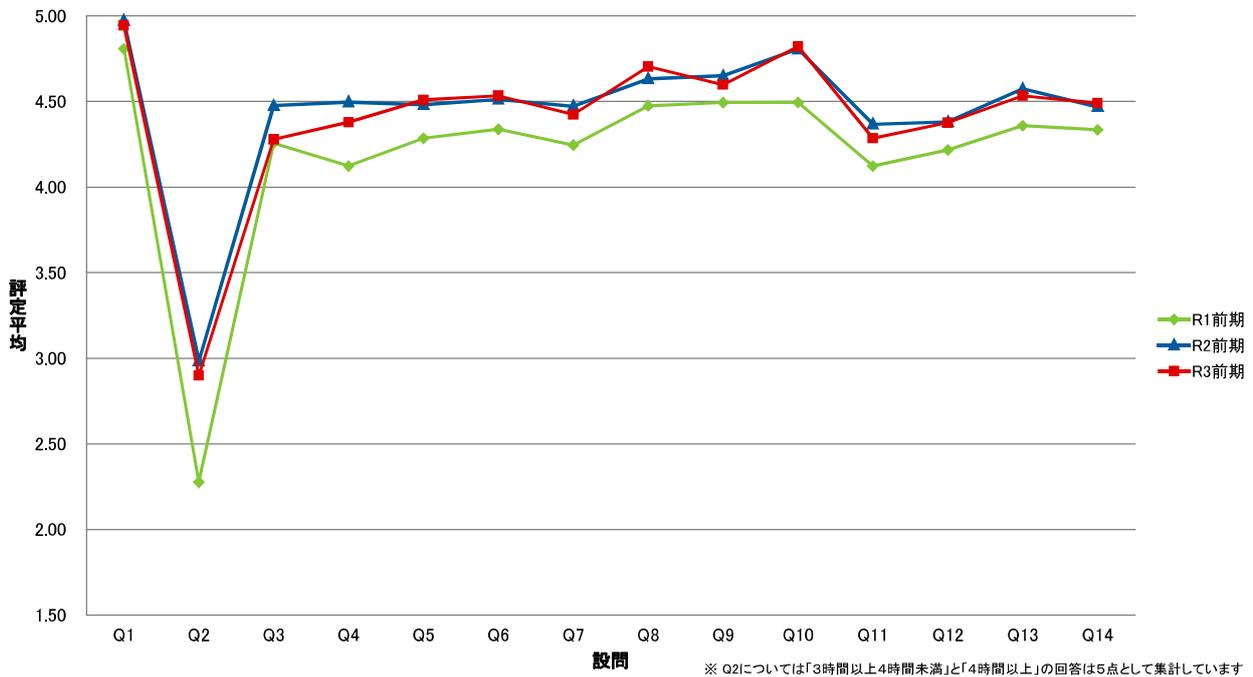
LTK 共一専門連携・多文化交流ゼミ【講】



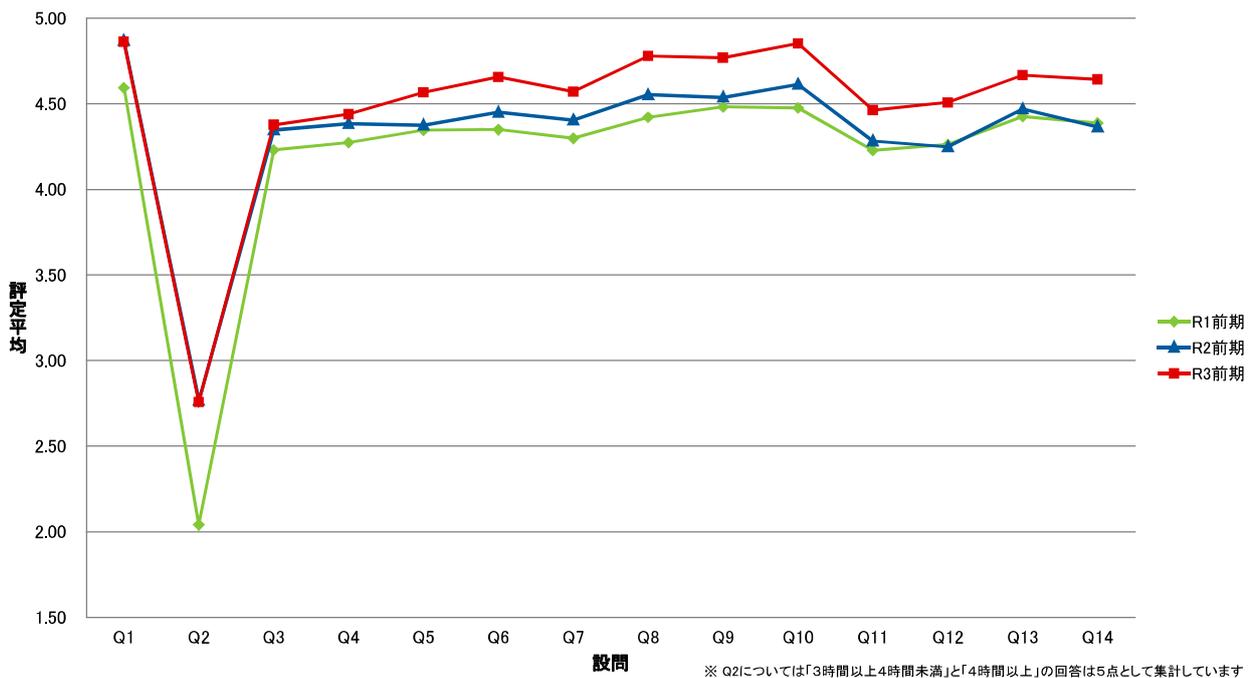
SCO 専一国際教養学系/国際教養学部【講】



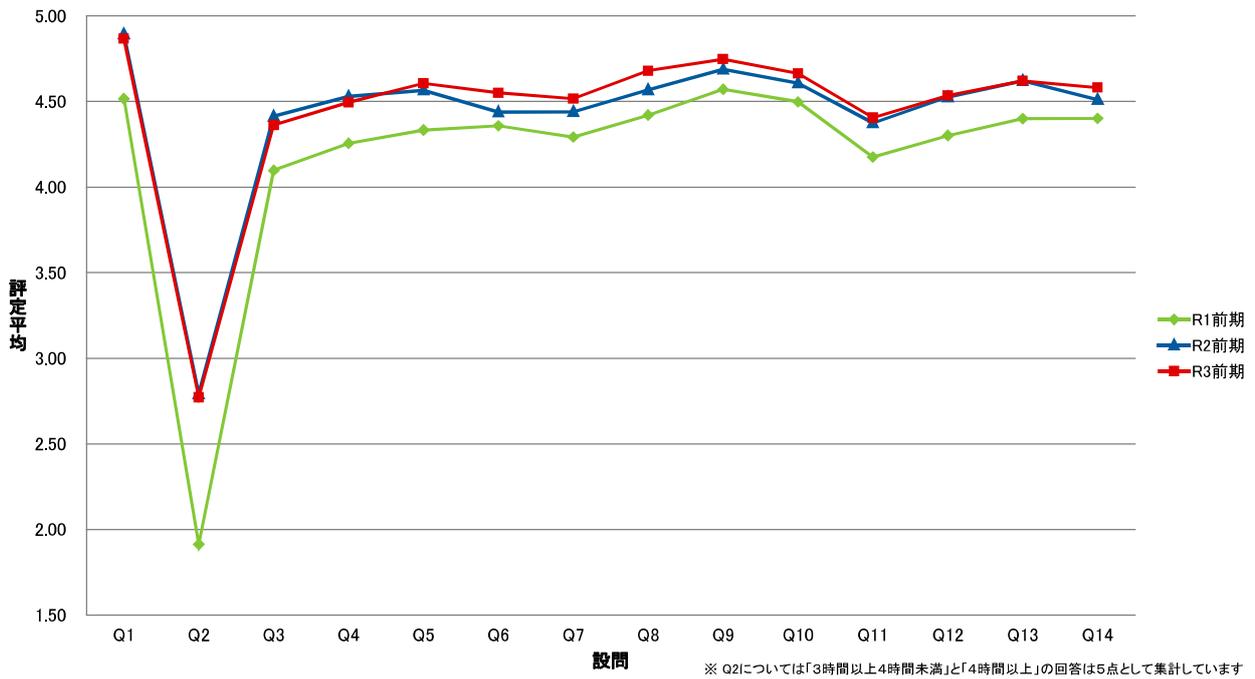
SRI 専一理学系/理学部【講】



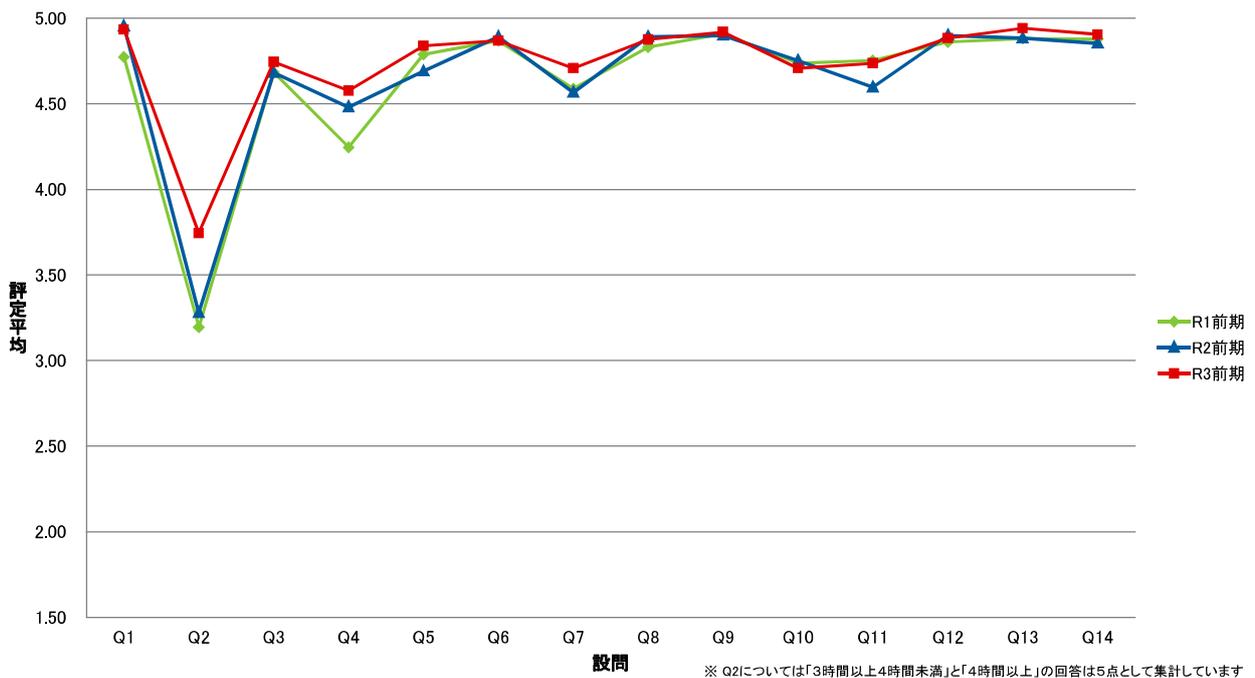
SKK 専一経営科学系/国際商学部【講】



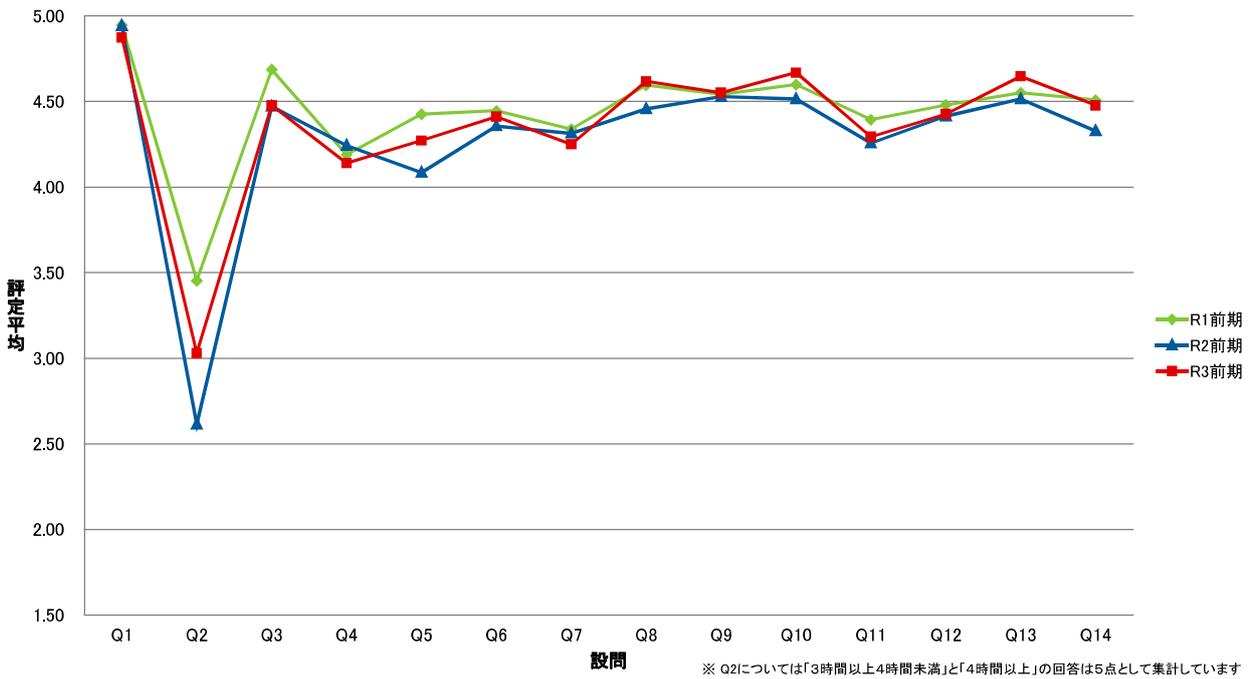
STO 専一国際都市学系/国際教養学部【講】



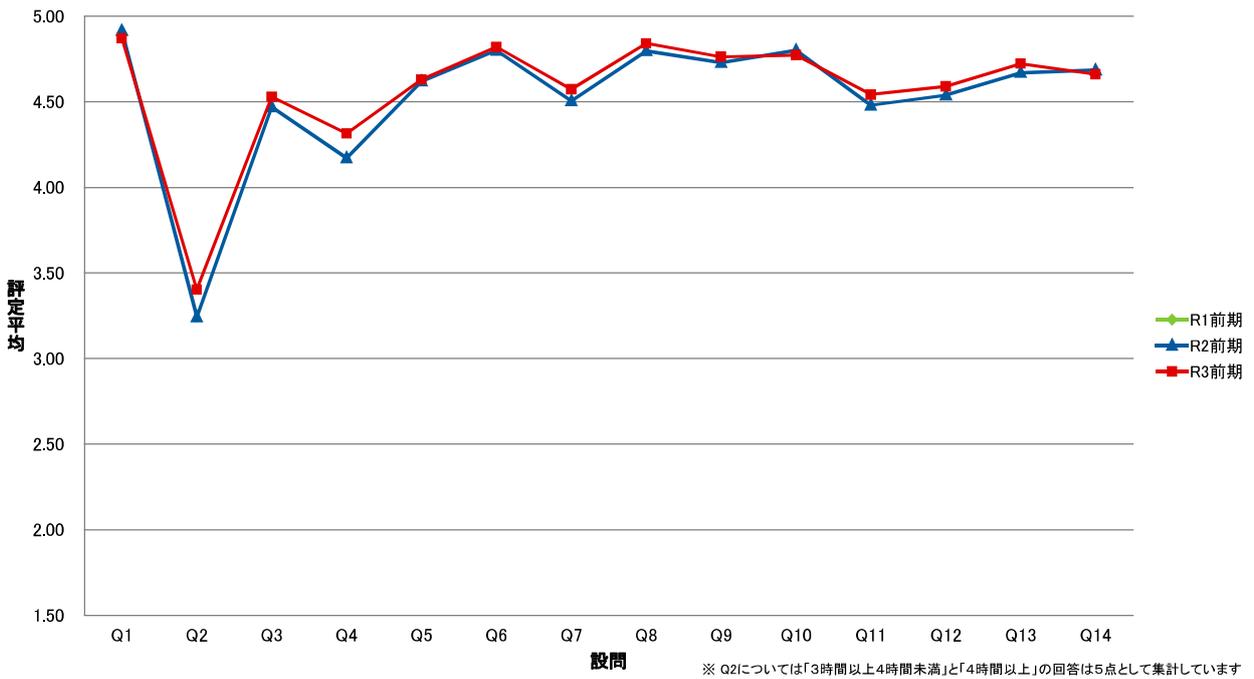
SCE 専一国際教養学系/国際教養学部【演】



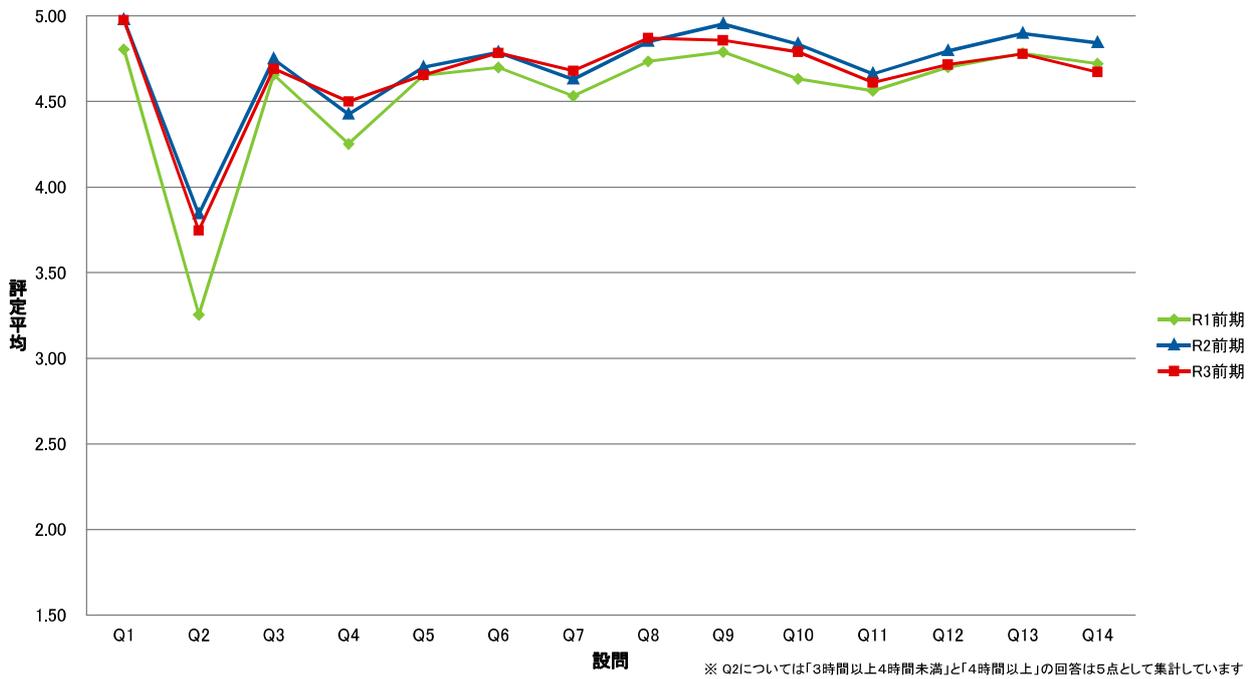
SRE 専一理学系/理学部【演】



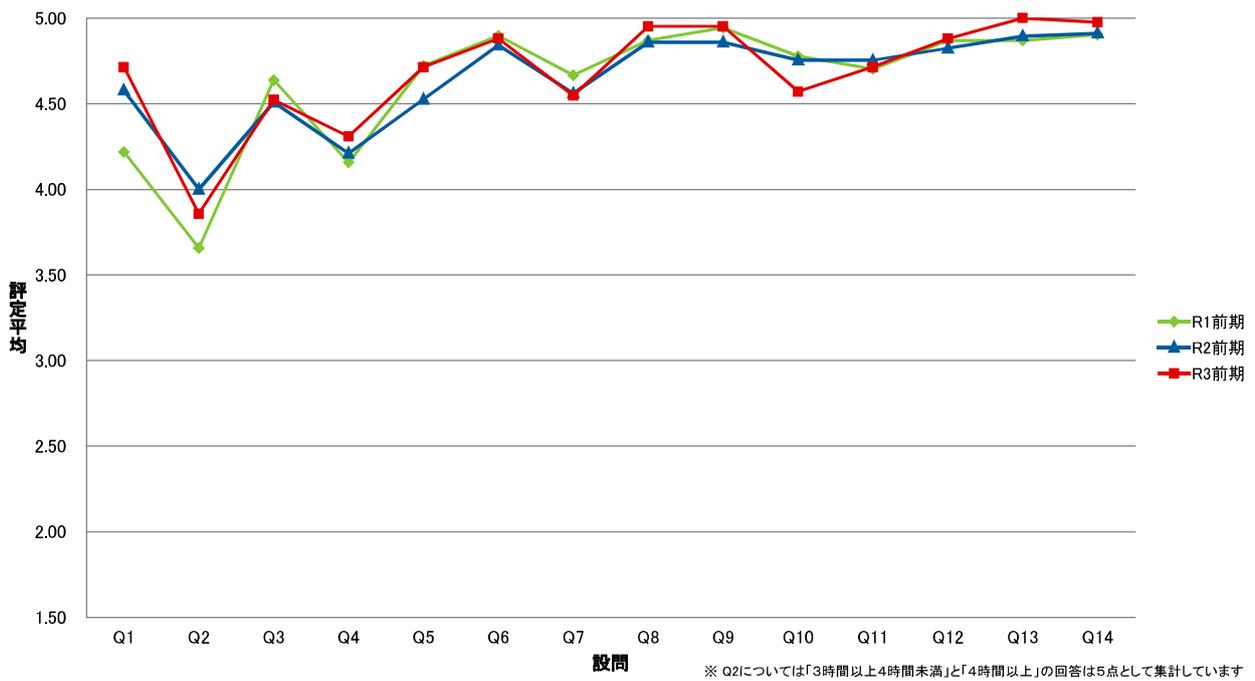
SKE 専一経営科学系/国際商学部【演】



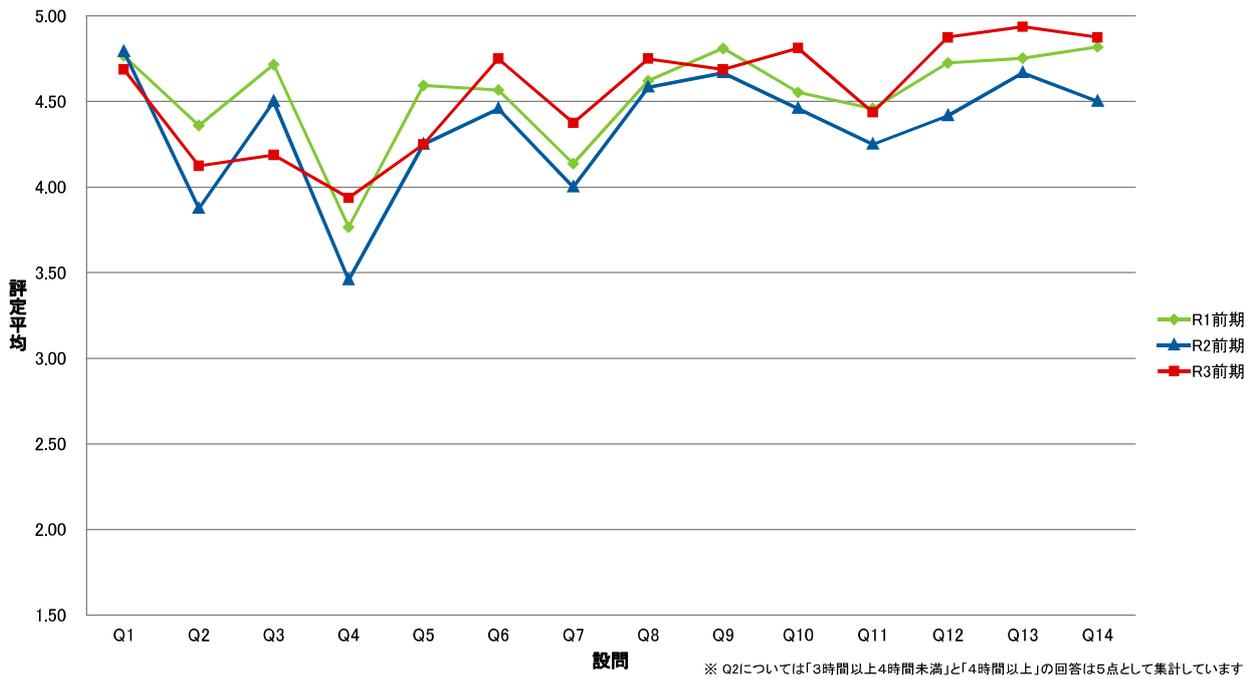
STE 専一国際都市学系/国際教養学部【演】



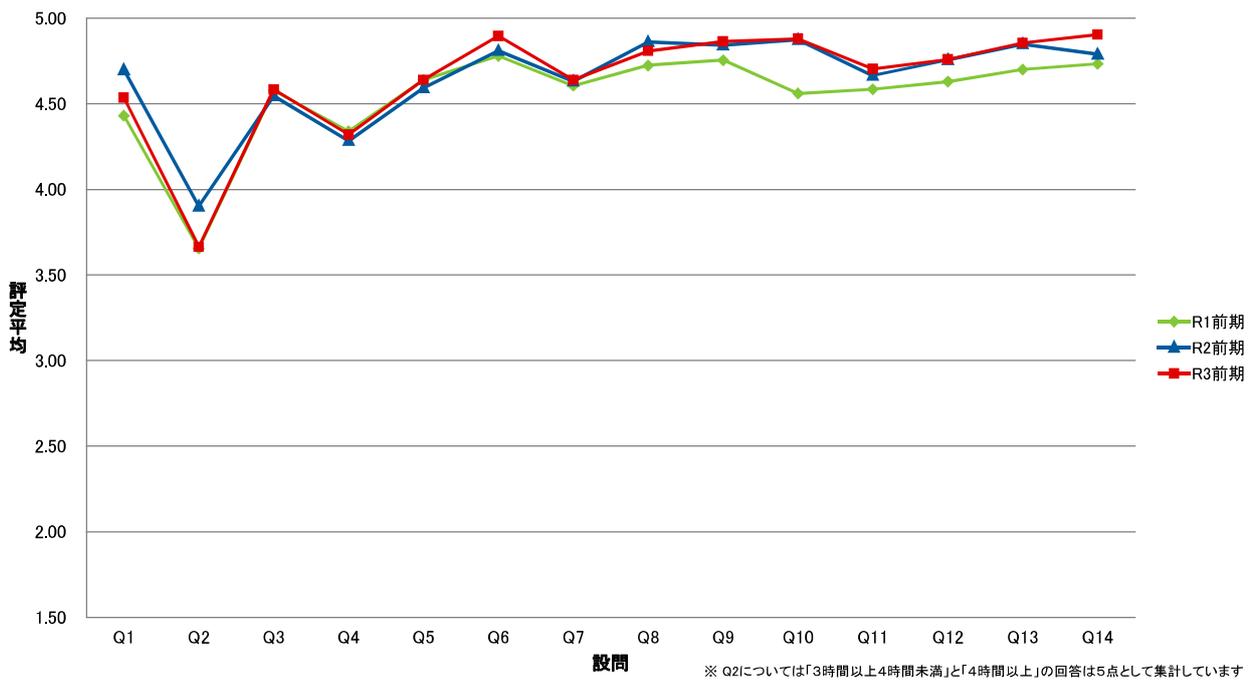
ZCO 専・卒ゼミー国際教養学系【演】

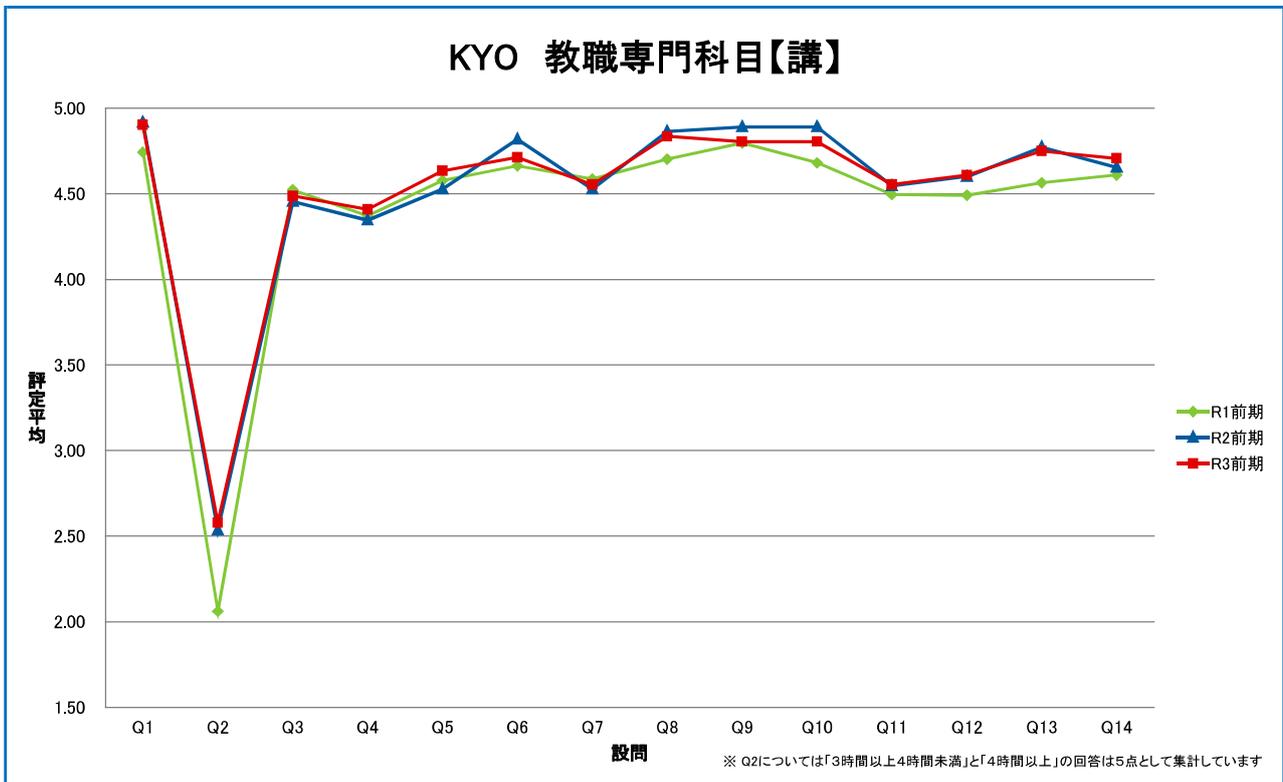
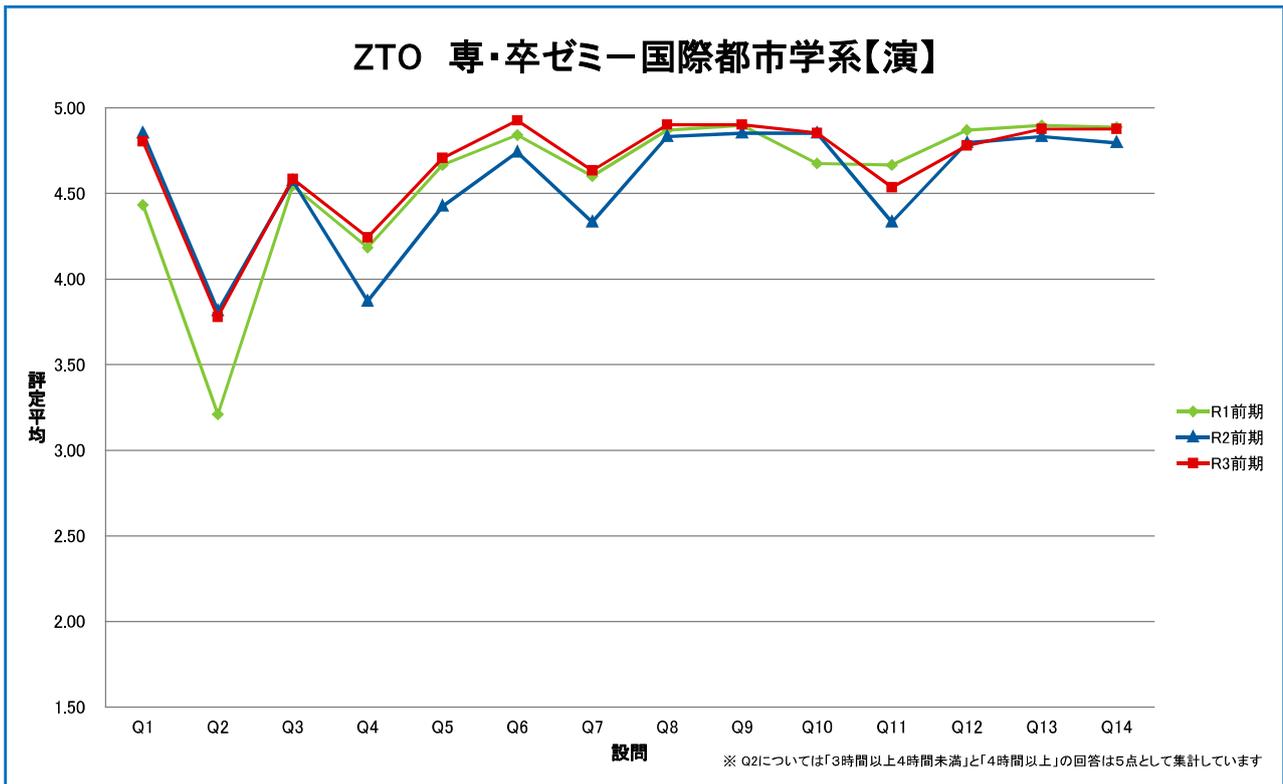


ZRI 専・卒ゼミー理学系【演】

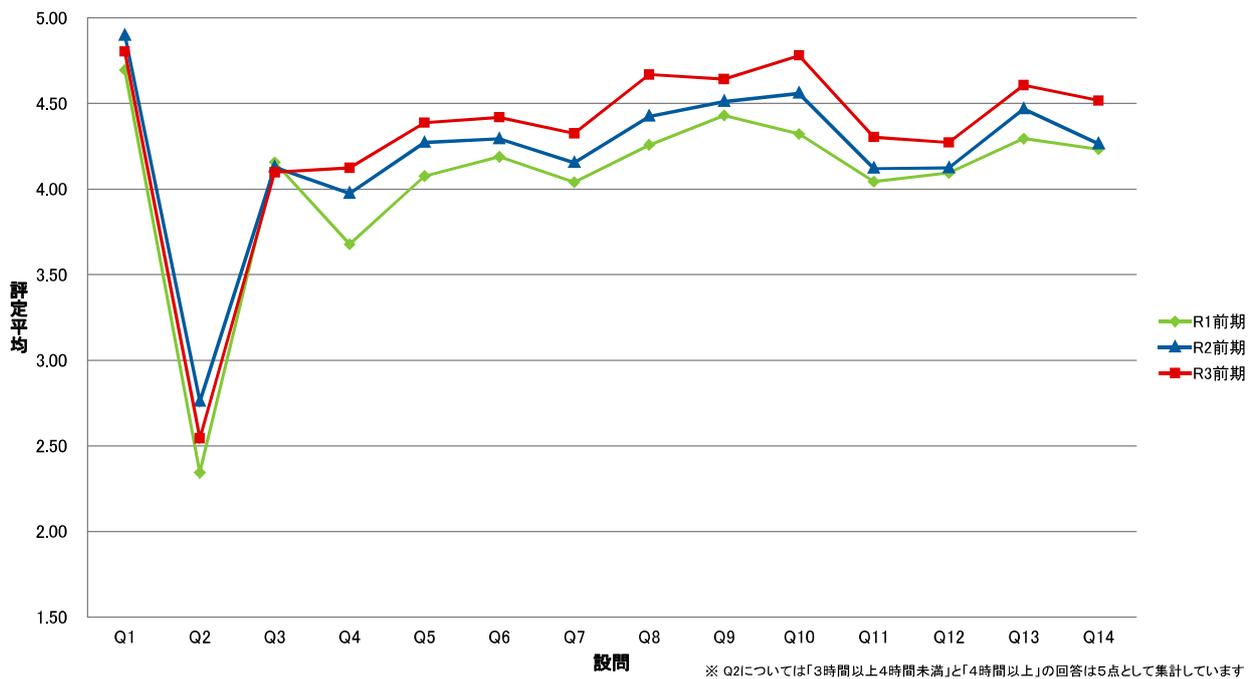


ZKK 専・卒ゼミー経営科学系【演】





DAT 共ーデータサイエンス学部系【講】



令和3年度前期科目における成績評価について

1. 趣旨

令和3年度前期科目の成績評価について分析を実施しましたので、報告いたします。

2. 分析対象データ

令和3年度前期科目のうち、下記条件をすべて満たす科目を対象としました。

- ・ 学部で開講された科目
- ・ 成績登録のあった科目
- ・ 講義科目（演習、実験、実習、インターンシップ、留学等ではない科目）
- ・ 「留学生対象の日本語に関する科目」ではない科目
- ・ 教職科目ではない科目
- ・ 成績が「秀」、「優」、「良」、「可」、「不合格」で判定される科目

3. 分析方法

- ・ 成績を下表の通り GP に変換し、GP の平均値を算出しました。

成績	GP (数値)
秀	4.0
優	3.0
良	2.0
可	1.0
不可	0.0

- ・ 科目の所属学部別、分野別（科目コード先頭3桁で分類）に GP の平均値と、「秀」、「優」、「良」、「可」、「不合格」の割合をグラフにしました。

4. ご意見いただきたいポイント

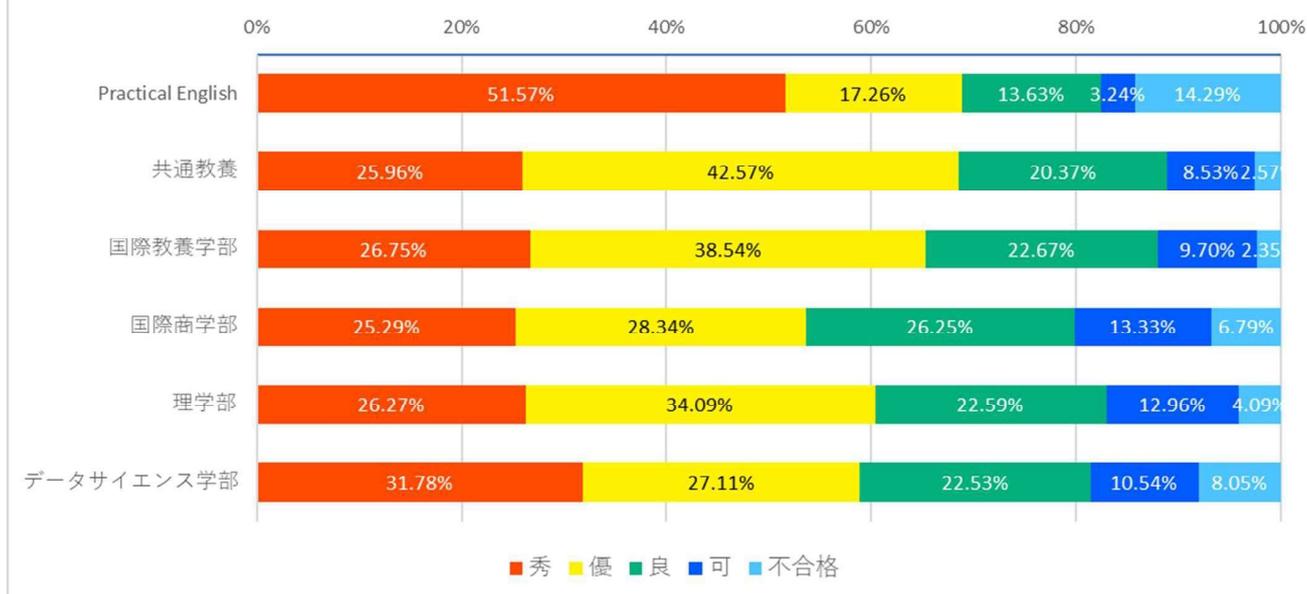
- ・ 現状の成績評価は「厳格かつ客観的に実施されている」といえるか。
- ・ 今後、成績評価ルールとして、設定したほうがよい条件はあるか。
例) 授業形態（演習科目は除く）、受講人数（30人以上など）、目標値とすべき GP の値
- ・ 授業方法の違いが成績評価に影響を与えた点はあったか。

5. 分析結果

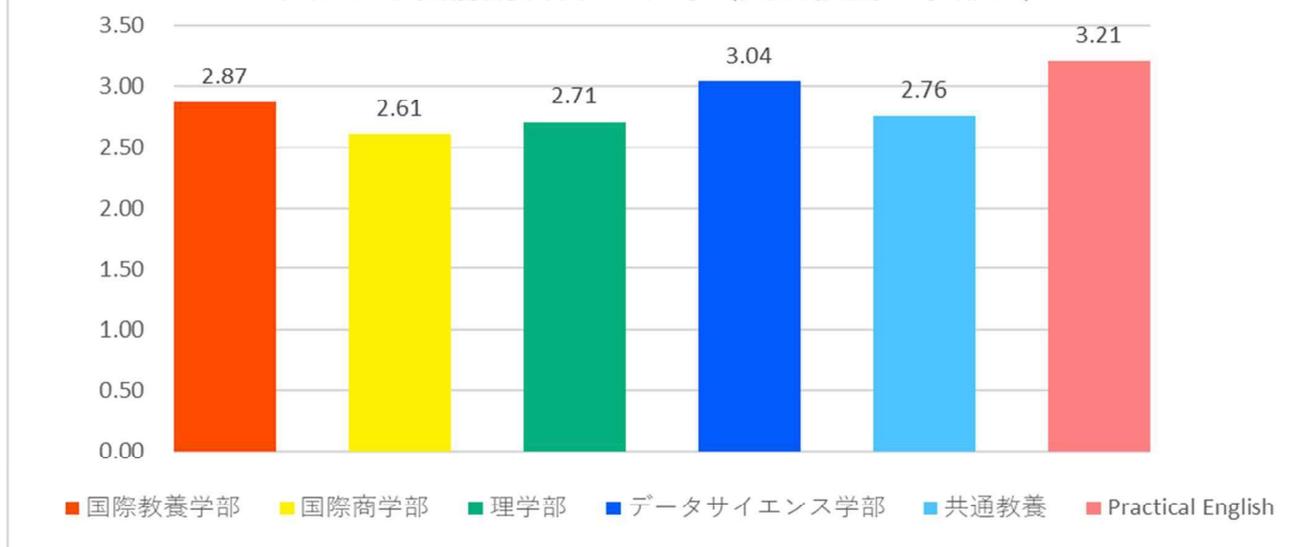
・ 全学部

所属学部	科目数	GP 平均値	秀	優	良	可	不合格	成績登録者数
Practical English	61	3.21	51.57%	17.26%	13.63%	3.24%	14.29%	1819
共通教養	266	2.76	25.96%	42.57%	20.37%	8.53%	2.57%	11897
国際教養学部	239	2.87	26.75%	38.54%	22.67%	9.70%	2.35%	7032
国際商学部	189	2.61	25.29%	28.34%	26.25%	13.33%	6.79%	7390
理学部	217	2.71	26.27%	34.09%	22.59%	12.96%	4.09%	6451
データサイエンス学部	38	3.04	31.78%	27.11%	22.53%	10.54%	8.05%	1243

令和3年度前期科目成績評価割合（共通教養・学部別）



令和3年度前期科目GP平均（共通教養・学部別）

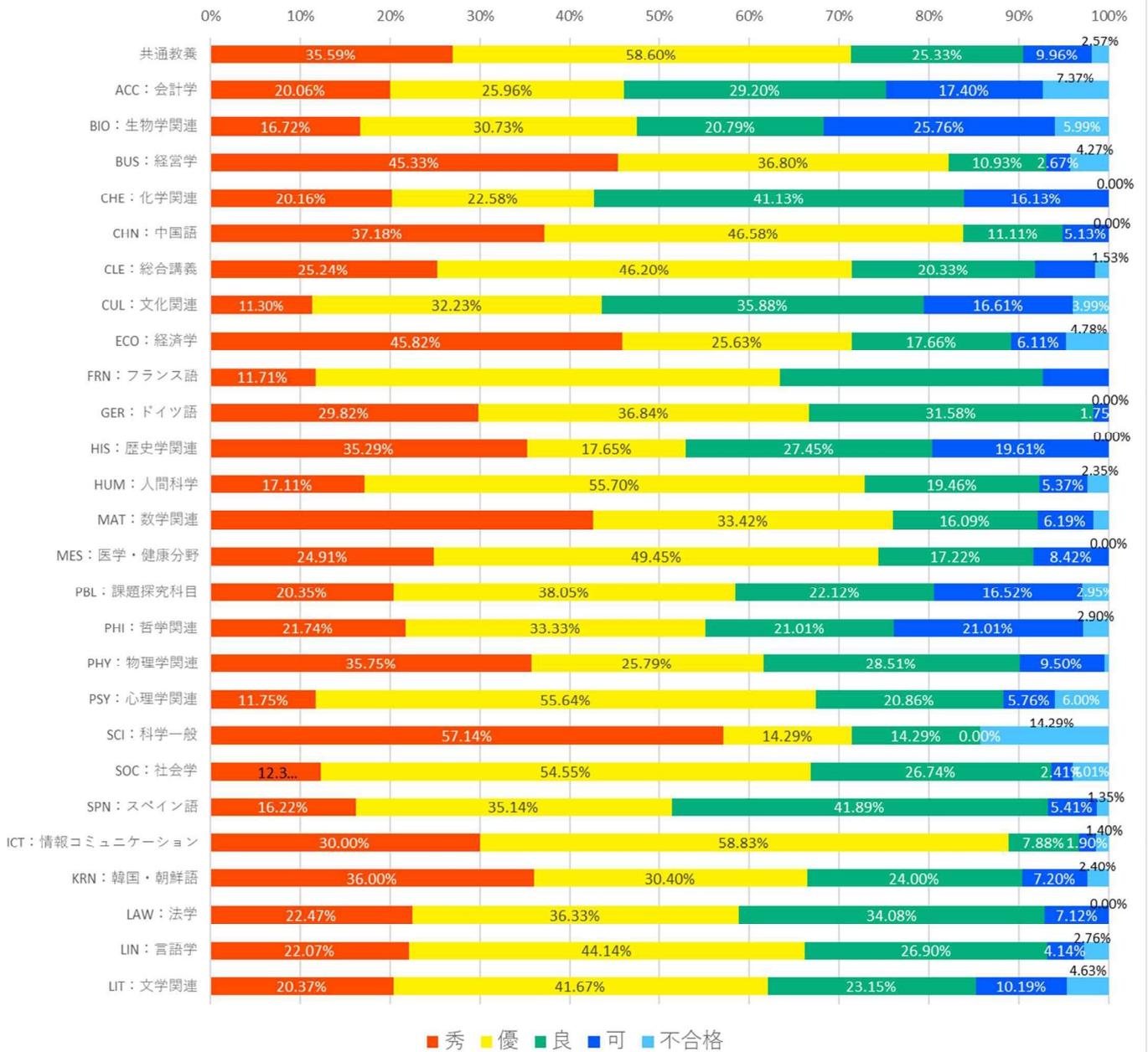


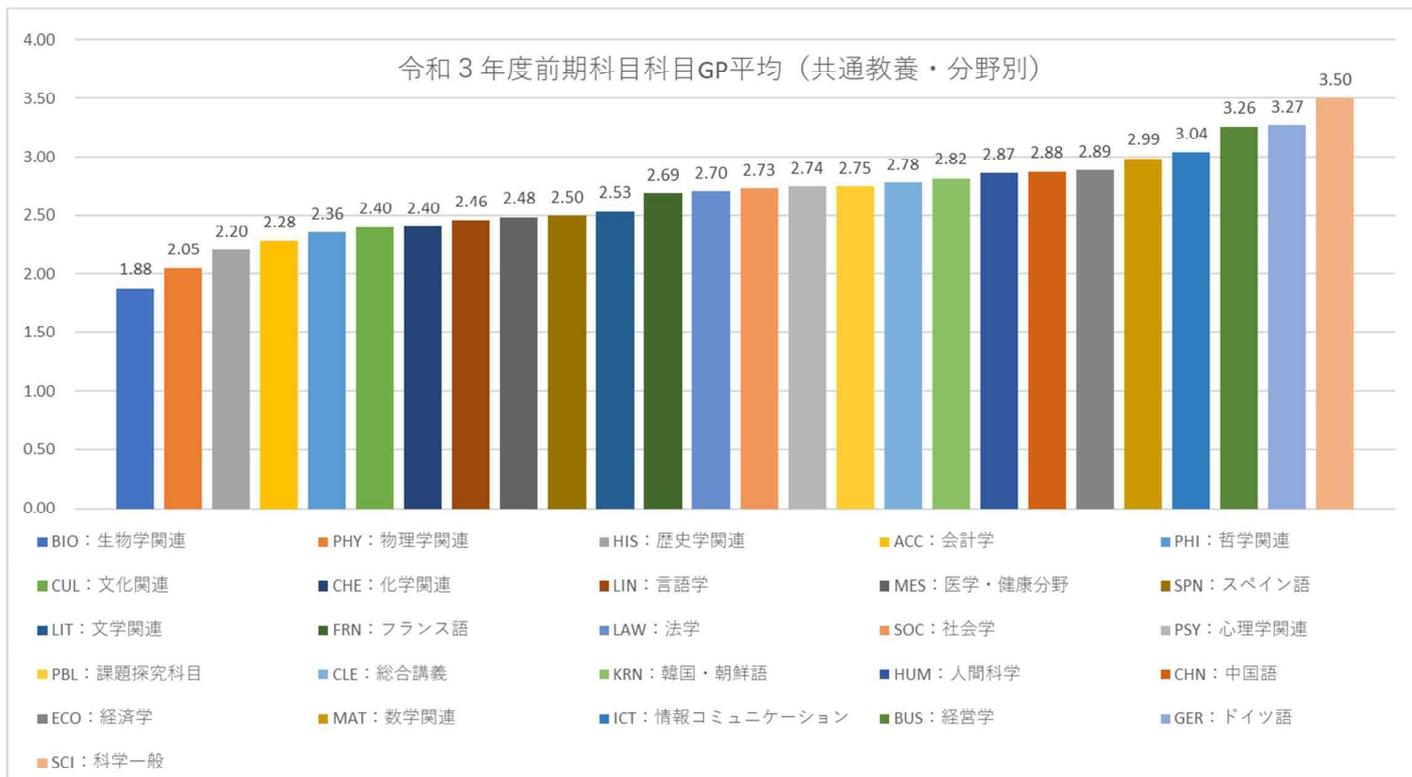
・ 学部・分野別の平均値について

① 共通教養

所属学部／科目コード	科目数	GP 平均値	秀	優	良	可	不合格	成績登録者数
共通教養	529	2.87	26.94%	44.37%	19.17%	7.54%	1.97%	15714
ACG：会計学	8	2.28	20.06%	25.96%	29.20%	17.40%	7.37%	339
BIO：生物学関連	10	1.88	16.72%	30.73%	20.79%	25.76%	5.99%	885
BUS：経営学	6	3.26	45.33%	36.80%	10.93%	2.67%	4.27%	375
CHE：化学関連	4	2.40	20.16%	22.58%	41.13%	16.13%	0.00%	248
CHN：中国語	20	2.88	37.18%	46.58%	11.11%	5.13%	0.00%	234
CLE：総合講義	26	2.78	25.24%	46.20%	20.33%	6.69%	1.53%	2868
CUL：文化関連	1	2.40	11.30%	32.23%	35.88%	16.61%	3.99%	301
ECO：経済学	16	2.89	45.82%	25.63%	17.66%	6.11%	4.78%	753
FRN：フランス語	19	2.69	11.71%	51.71%	29.27%	7.32%	0.00%	205
GER：ドイツ語	15	3.27	29.82%	36.84%	31.58%	1.75%	0.00%	171
HIS：歴史学関連	2	2.20	35.29%	17.65%	27.45%	19.61%	0.00%	51
HUM：人間科学	1	2.87	17.11%	55.70%	19.46%	5.37%	2.35%	298
MAT：数学関連	10	2.99	42.57%	33.42%	16.09%	6.19%	1.73%	404
MES：医学・健康分野	2	2.48	24.91%	49.45%	17.22%	8.42%	0.00%	273
PBL：課題探究科目	17	2.75	20.35%	38.05%	22.12%	16.52%	2.95%	678
PHI：哲学関連	2	2.36	21.74%	33.33%	21.01%	21.01%	2.90%	138
PHY：物理学関連	6	2.05	35.75%	25.79%	28.51%	9.50%	0.45%	221
PSY：心理学関連	8	2.74	11.75%	55.64%	20.86%	5.76%	6.00%	417
SCI：科学一般	1	3.50	57.14%	14.29%	14.29%	0.00%	14.29%	7
SOC：社会学	4	2.73	12.30%	54.55%	26.74%	2.41%	4.01%	374
SPN：スペイン語	21	2.50	16.22%	35.14%	41.89%	5.41%	1.35%	222
IGT：情報コミュニケーション	40	3.04	30.00%	58.83%	7.88%	1.90%	1.40%	1790
KRN：韓国・朝鮮語	15	2.82	36.00%	30.40%	24.00%	7.20%	2.40%	125
LAW：法学	6	2.70	22.47%	36.33%	34.08%	7.12%	0.00%	267
LIN：言語学	2	2.46	22.07%	44.14%	26.90%	4.14%	2.76%	145
LIT：文学関連	4	2.53	20.37%	41.67%	23.15%	10.19%	4.63%	108

令和3年度前期科目成績評価割合（共通教養・分野別）

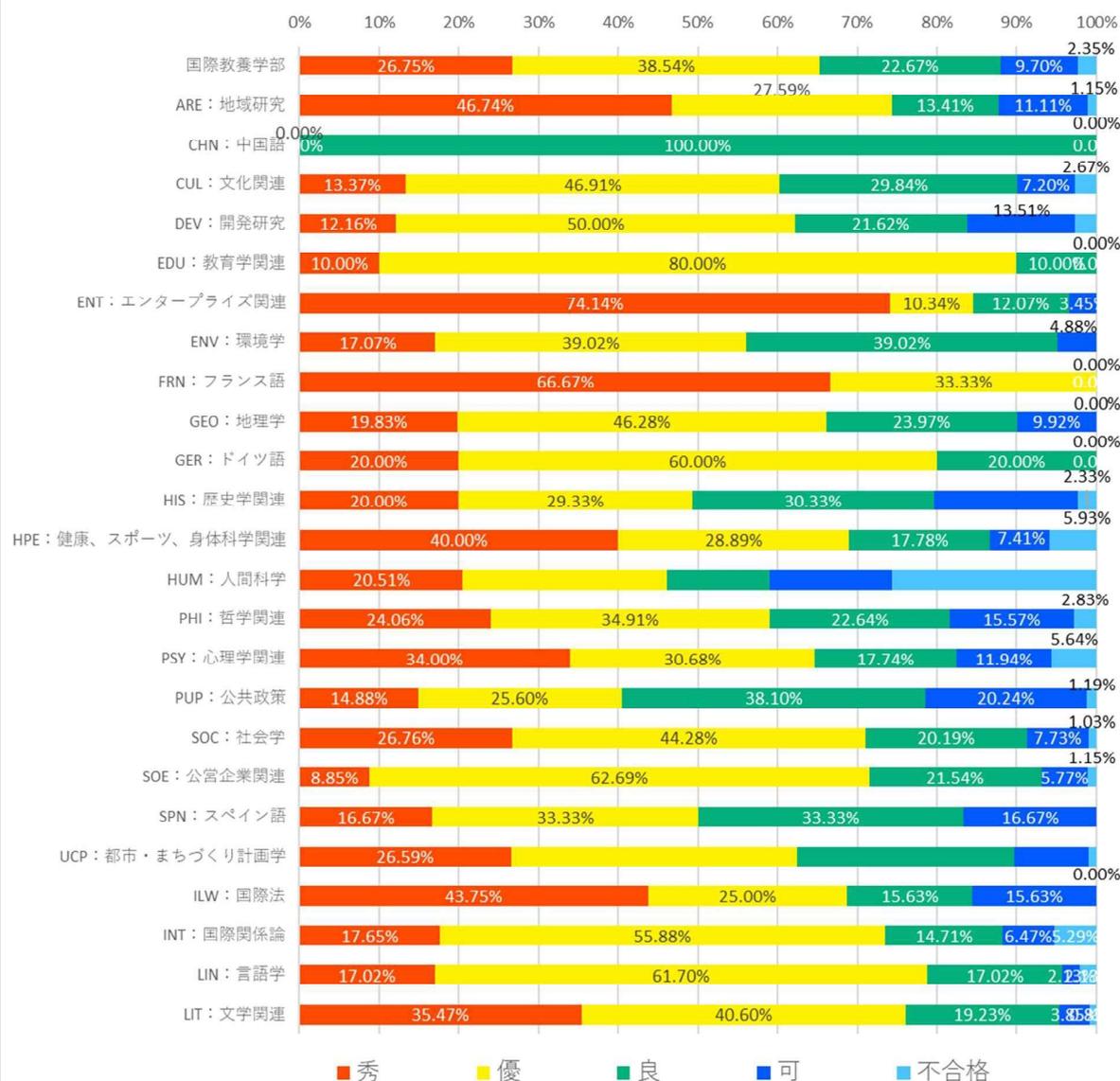




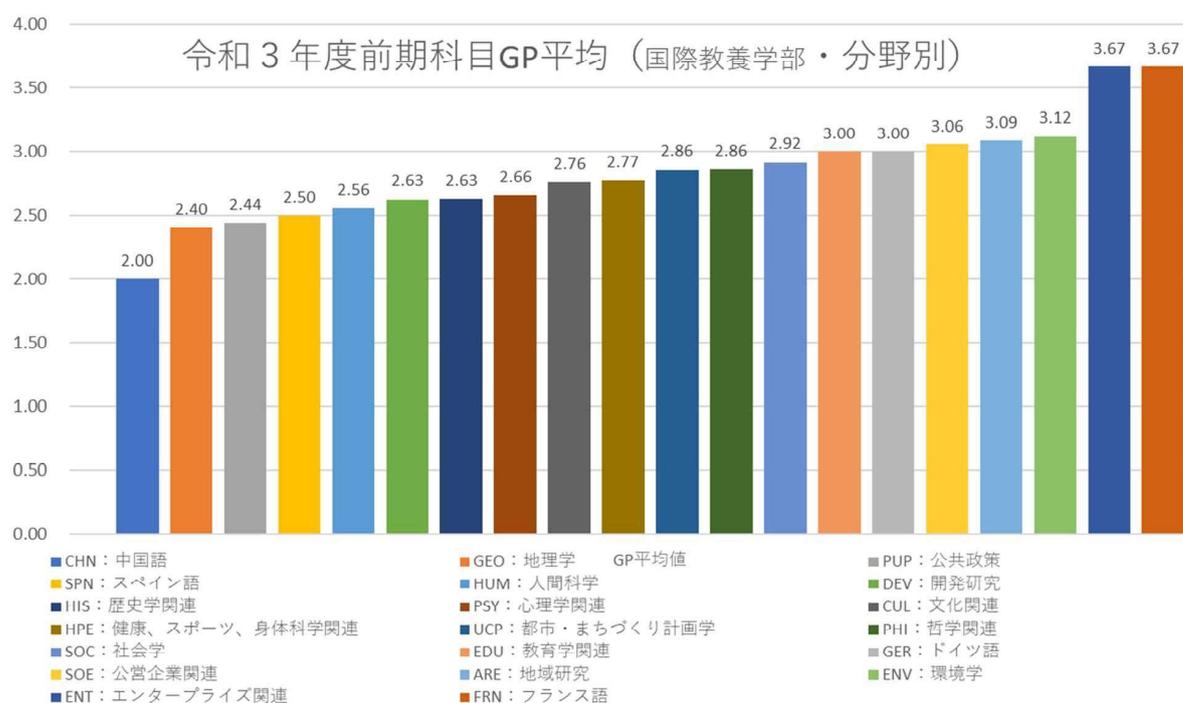
② 国際教養学部

所属学部／科目コード	科目数	GP 平均値	秀	優	良	可	不合格	成績登録者数
国際教養学部	239	2.87	26.75%	38.54%	22.67%	9.70%	2.35%	7032
ARE：地域研究	8	3.09	46.74%	27.59%	13.41%	11.11%	1.15%	261
CHN：中国語	1	2.00	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	1
CUL：文化関連	31	2.76	13.37%	46.91%	29.84%	7.20%	2.67%	486
DEV：開発研究	1	2.63	12.16%	50.00%	21.62%	13.51%	2.70%	74
EDU：教育学関連	2	3.00	10.00%	80.00%	10.00%	0.00%	0.00%	10
ENT：エンタープライズ関連	3	3.67	74.14%	10.34%	12.07%	3.45%	0.00%	58
ENV：環境学	4	3.12	17.07%	39.02%	39.02%	4.88%	0.00%	82
FRN：フランス語	1	3.67	66.67%	33.33%	0.00%	0.00%	0.00%	3
GEO：地理学	8	2.40	19.83%	46.28%	23.97%	9.92%	0.00%	121
GER：ドイツ語	1	3.00	20.00%	60.00%	20.00%	0.00%	0.00%	5
HIS：歴史学関連	18	2.63	20.00%	29.33%	30.33%	18.00%	2.33%	300
HPE：健康、スポーツ、身体 科学関連	2	2.77	40.00%	28.89%	17.78%	7.41%	5.93%	135
HUM：人間科学	3	2.56	20.51%	25.64%	12.82%	15.38%	25.64%	39
PHI：哲学関連	13	2.86	24.06%	34.91%	22.64%	15.57%	2.83%	212
PSY：心理学関連	16	2.66	34.00%	30.68%	17.74%	11.94%	5.64%	1206
PUP：公共政策	5	2.44	14.88%	25.60%	38.10%	20.24%	1.19%	168
SOC：社会学	37	2.92	26.76%	44.28%	20.19%	7.73%	1.03%	1461
SOE：公営企業関連	10	3.06	8.85%	62.69%	21.54%	5.77%	1.15%	260
SPN：スペイン語	1	2.50	16.67%	33.33%	33.33%	16.67%	0.00%	12
UCP：都市・まちづくり計画 学	28	2.86	26.59%	35.85%	27.28%	9.33%	0.95%	1576
ILW：国際法	4	2.96	43.75%	25.00%	15.63%	15.63%	0.00%	64
INT：国際関係論	18	2.96	17.65%	55.88%	14.71%	6.47%	5.29%	170
LIN：言語学	8	3.09	17.02%	61.70%	17.02%	2.13%	2.13%	94
LIT：文学関連	16	3.25	35.47%	40.60%	19.23%	3.85%	0.85%	234

令和3年度前期科目成績評価割合（国際教養学部・分野別）



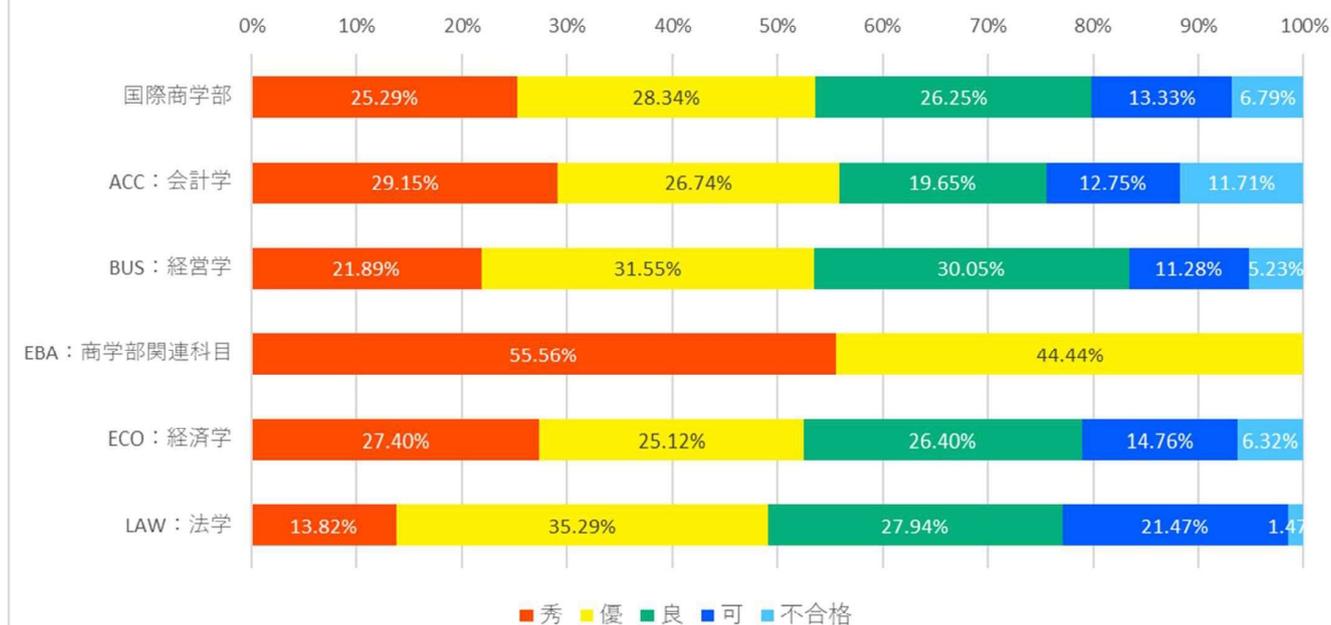
令和3年度前期科目GP平均（国際教養学部・分野別）



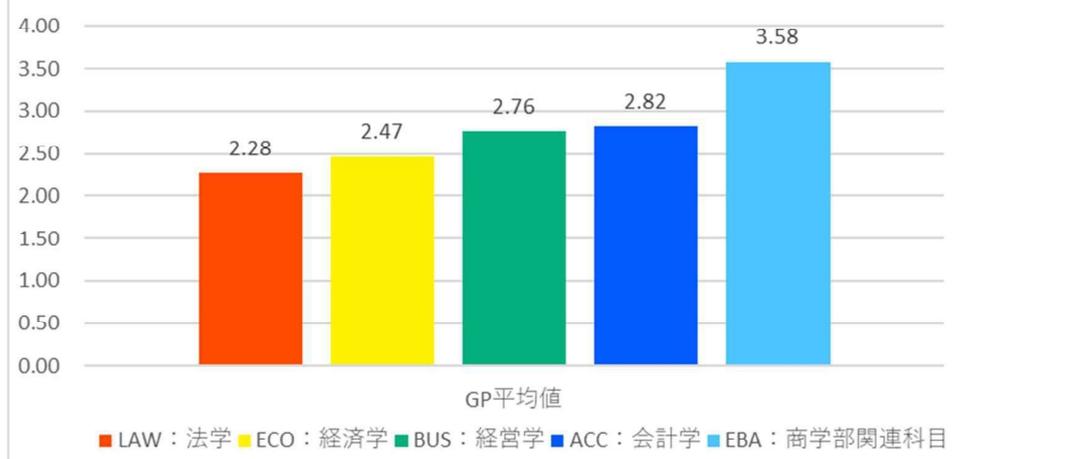
③ 国際商学部

所属学部／科目コード	科目数	GP 平均値	秀	優	良	可	不合格	成績登録者数
国際商学部	189	2.61	25.29%	28.34%	26.25%	13.33%	6.79%	7390
ACC：会計学	43	2.82	29.15%	26.74%	19.65%	12.75%	11.71%	1537
BUS：経営学	46	2.76	21.89%	31.55%	30.05%	11.28%	5.23%	2659
EBA：商学部関連科目	2	3.58	55.56%	44.44%	0.00%	0.00%	0.00%	36
ECO：経済学	78	2.47	27.40%	25.12%	26.40%	14.76%	6.32%	2818
LAW：法学	20	2.28	13.82%	35.29%	27.94%	21.47%	1.47%	340

令和3年度前期科目成績評価割合（国際商学部・分野別）



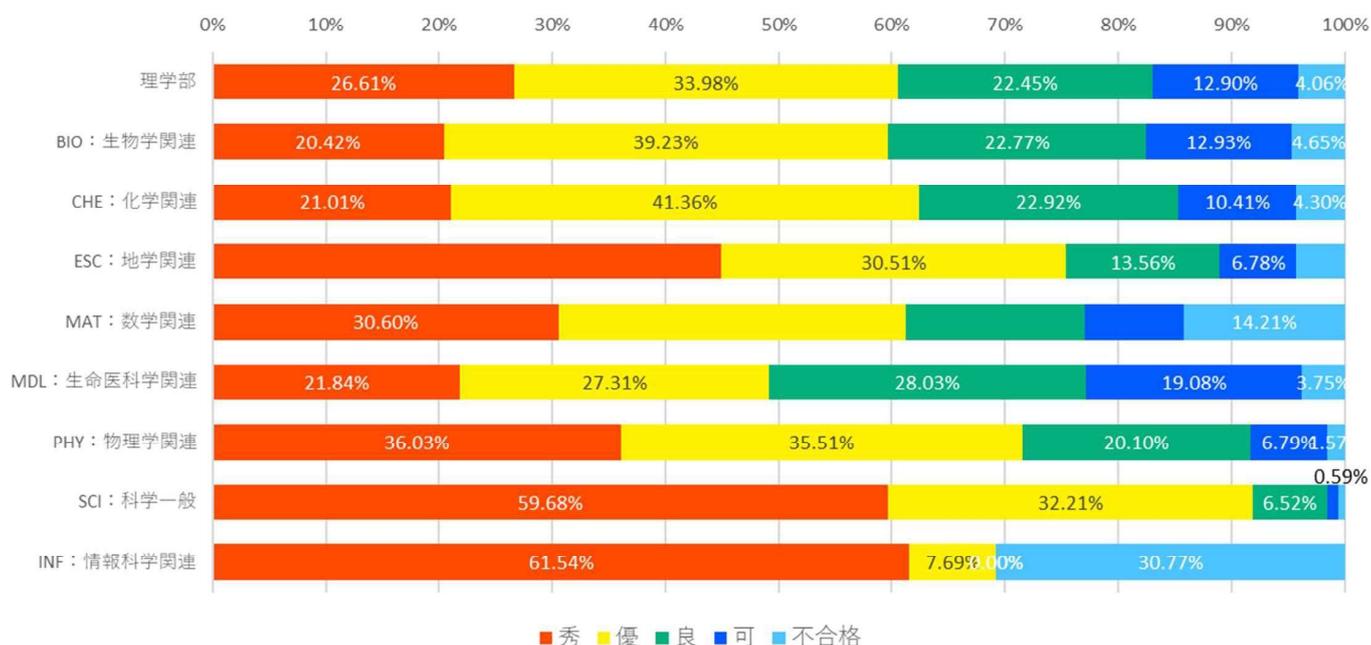
令和3年度前期科目GP平均（国際商学部・分野別）

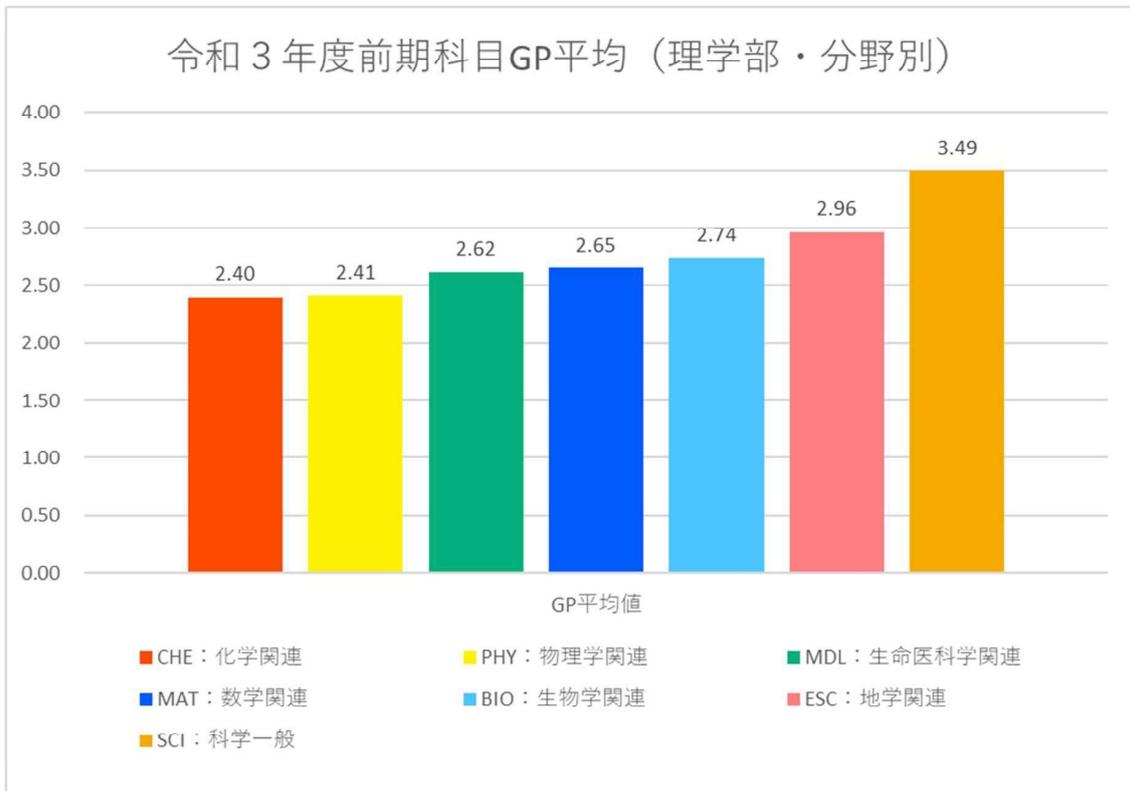


④ 理学部

所属学部／科目コード	科目数	GP 平均値	秀	優	良	可	不合格	成績登録者数
理学部	240	2.71	26.61%	33.98%	22.45%	12.90%	4.06%	6451
BIO：生物学関連	77	2.74	20.42%	39.23%	22.77%	12.93%	4.65%	1871
CHE：化学関連	24	2.40	21.01%	41.36%	22.92%	10.41%	4.30%	1047
ESC：地学関連	8	2.96	44.92%	30.51%	13.56%	6.78%	4.24%	236
MAT：数学関連	9	2.65	30.60%	30.60%	15.85%	8.74%	14.21%	183
MDL：生命医科学関連	68	2.62	21.84%	27.31%	28.03%	19.08%	3.75%	2212
PHY：物理学関連	15	2.41	36.03%	35.51%	20.10%	6.79%	1.57%	383
SCI：科学一般	8	3.49	59.68%	32.21%	6.52%	0.99%	0.59%	506
INF：情報科学関連	8	3.88	61.54%	7.69%	0.00%	0.00%	30.77%	13

令和3年度前期科目成績評価割合（理学部・分野別）





⑤ データサイエンス学部

科目コードが「DAT（データサイエンス）」のみであるため、個別のグラフを割愛（全学分析結果のグラフを参照）

LMS ポートフォリオ機能について

(1) ポートフォリオ機能に表示する YCU 指標 学修成果項目「各学部独自項目」各学部の回答 1

1 確認事項

(1) 依頼事項①の表記について

下記 3 点から選択をお願いします。

- ① 学部独自項目 ② 専門的理解 ③ 学部独自項目（専門的理解）

(2) 依頼事項③について

各学部の注釈の体裁を統一するために文頭・文末を微修正しましたので、確認をお願いします。（赤字追記）

(各学部検討結果)

「学修成果の可視化」における各学部の「学部独自項目」の表記について

	依頼事項③ システムに記載する「学部独自項目」の注釈（最大 300 字）
国際教養学部	国際教養学部の各クラスターで身に着けるべき専門性を示します。国際社会についての専門的理解、国際文化についての専門的理解、人間科学についての専門的理解、都市・地域に関する応用的分野の専門的理解が含まれます。（102 文字）
国際商学部	国際商学部が身につけるべき専門性を示します。経営学、会計学、経済学、法学に関する専門的理解、あるいは、複数の学問領域の融合的理解が含まれますの指標です。（70 文字）
理学部	理学部が身につけるべき専門性を示します。物質科学、生命環境、生命医科学に関する専門的理解、あるいは理学的素養が含まれます。（61 文字）
データサイエンス学部	データサイエンス学部が身につけるべき専門性を示します。社会課題の数理的表現力、統計数理的知識・技能、情報処理技術の活用力、社会展開力が含まれます。（73 文字）

2 今後のスケジュール

10 月 14 日 各学部教授会にて確認依頼

10 月 19 日 「1 確認事項」回答期限

10 月 19 日～22 日 事務局が集約し内容確認依頼

10 月最終週 内容確定

12 月 第 3 回教学 IR 検討ワーキングにて結果を事後報告

1 ALCS 学修行動比較調査 2020 年度調査について

◆ ALCS 学修行動比較調査について

教学比較 IR コモンズ^{※1}に加入する各大学の1及び3学年に対し、共通の設問(80問)について実施します。学生はインターネット上から調査期間中いつでも回答することができるため、授業時間に実施する必要がなく、教員が関与することなく調査の実施及び集計が可能となります。また、調査結果についてコモンズに加入する他大学と比較することが可能です。

※1 教学比較 IR コモンズ:

入り会いの各大学における学生の学修行動の比較調査とその分析、そして教学関連の情報を比較閲覧するためのデータベース構築とその提供を行う組織

◆ 本学における調査実施体制

・ 対象者

2018 年および 2020 年入学の学部生で在籍している 1926 名

※ 実際に3年生に進級しているかに関わらず、入学年によって調査対象学年を定義しました。

※ ALCS 学修行動比較調査の集計単位は学部が基本ですが、本学の医学部(医学科・看護学科)はその特殊性に鑑み学科単位で集計することとします。また国際総合科学部については、学系単位で改組後の新学部にあわせて集計します。

・ 調査実施期間

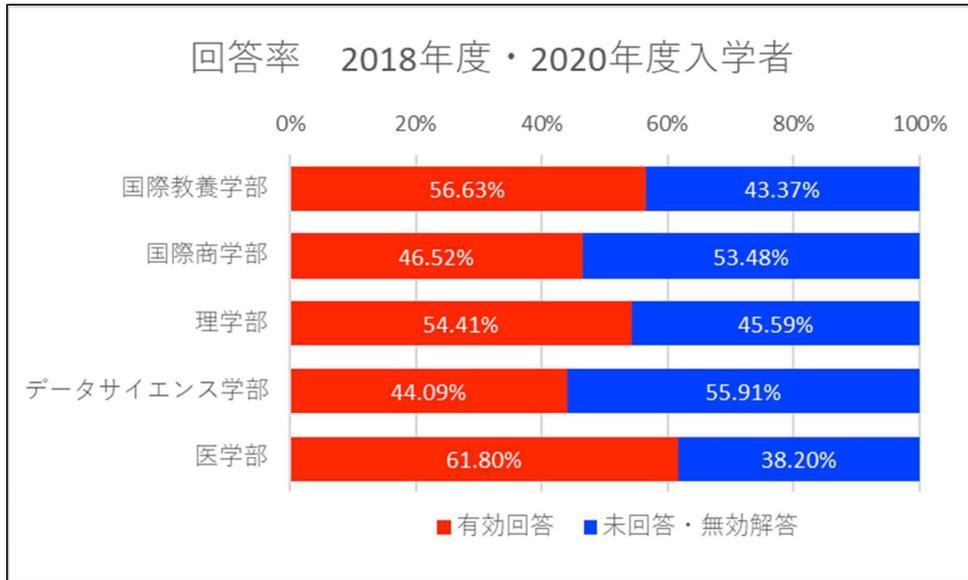
2021/1/22(金)～2/3(水)

・ 回答率

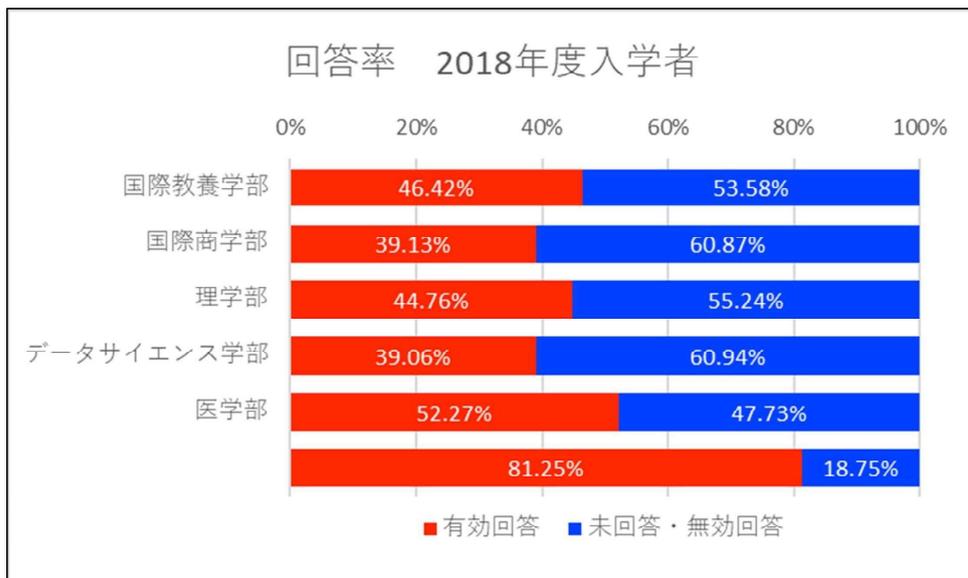
入学年度		国際教養学部	国際商学部	理学部	データサイエ	医学部		全学部合
		(教養学系・都市学系)	(経営科学系)	(理学系)	ンス学部	医学科	看護学科	
2018 年度入学者 ・ 2020 年度入学者	対象者	581 名	546 名	272 名	127 名	178 名	198 名	1902 名
	有効回答	329 名	254 名	148 名	56 名	110 名	145 名	1042 名
		56.63%	46.52%	54.41%	44.09%	61.80%	73.23%	54.78%
未回答・ 無効回答	252 名	292 名	124 名	71 名	68 名	53 名	860 名	
	43.37%	53.48%	45.59%	55.91%	38.20%	26.77%	45.22%	
2018 年度入学者 (3 年次相当)	対象者	293 名	276 名	143 名	64 名	88 名	96 名	960 名
	有効回答	136 名	108 名	64 名	25 名	46 名	78 名	457 名
		46.42%	39.13%	44.76%	39.06%	52.27%	81.25%	47.60%
未回答・ 無効回答	157 名	168 名	79 名	39 名	42 名	18 名	503 名	
	53.58%	60.87%	55.24%	60.94%	47.73%	18.75%	52.40%	
2020 年度入学者 (当時 1 年次生)	対象者	288 名	270 名	129 名	63 名	90 名	102 名	942 名
	有効回答	177 名	130 名	77 名	29 名	60 名	67 名	540 名
		57.47%	46.26%	54.61%	45.31%	67.42%	64.42%	54.71%
未回答・ 無効回答	131 名	151 名	64 名	35 名	29 名	37 名	447 名	
	42.53%	53.74%	45.39%	54.69%	32.58%	35.58%	45.29%	

・ 本アンケートは 80 設問への回答率が 60%以上等、教学比較 IR コモンズ側の有効回収基準を満たしたものを「有効回答」とします

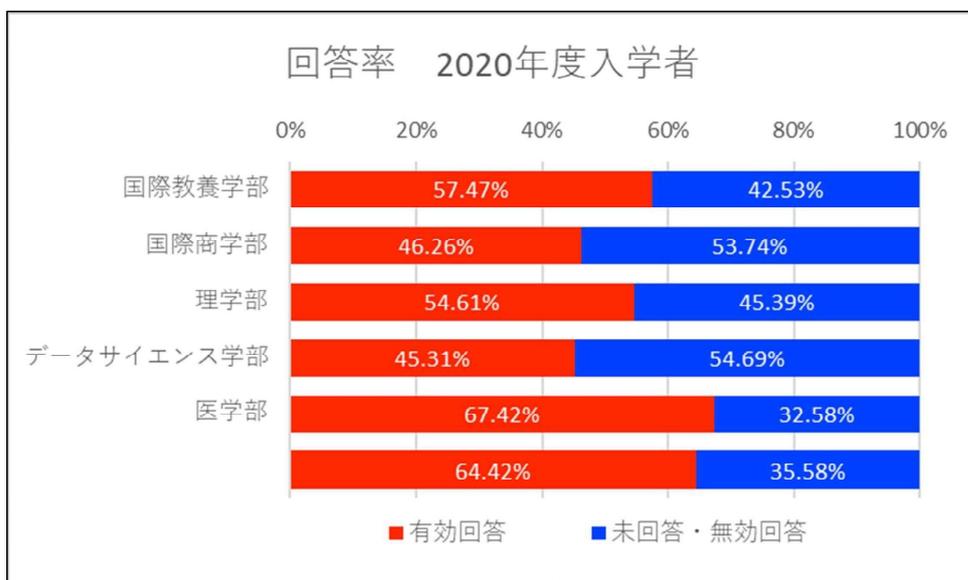
・ 2018年度・2020年度



・ 2018年度



・ 2020年度



2 学部間回答平均値比較

(1)「大学の授業や学びに関する経験」に関連する設問

<設問の内容が肯定的な設問群>

回答選択肢: 3:かなりよくあった、2:よくあった、1:たまにあった、-1:あまりなかった、
-2:ほとんどなかった、-3:まったくなかった

※赤塗りつぶし: 最も「経験した」と回答した学部(学科)、

青塗りつぶし: 最も「経験しなかった」と回答した学部(学科)

設問 No	設問内容	全 学部	国 際 教 養 学 部	ス ン エ イ サ タ デ			医 学 科	看 護 学 科
				国 際 商 学 部	理 学 部	学 部		
1	授業内での学生間のディスカッション	0.72	0.77	0.54	0.17	0.05	0.48	1.94
3	授業中に質問をして、よかったと思えた経験	-0.01	0.12	-0.15	0.11	0.14	-0.06	-0.22
4	よく学ぶ学生に刺激されて学修が促されたこと	0.35	0.13	0.49	-0.18	0.81	0.48	0.35
5	大学からの学修に関する情報提供や案内が役立っている実感	0.14	0.21	0.1	0.2	-0.23	0.03	0.26
6	自発的に文献や資料を調べること	0.67	0.75	0.61	1.18	0.54	0.39	0.35
7	小テストの実施やレポートなどの課題提出	2.35	2.36	2.21	2.51	2.14	2.33	2.54
8	提出物に対する教員からの添削やコメント	0.07	0.26	-0.44	-0.11	0.27	0.06	0.65
9	課題発表の機会	0.92	1.04	0.88	1.05	0.07	0.73	1.05
12	図書館の活用	-0.55	-0.47	-0.63	0.3	-1.07	-1.1	-0.78
13	インターネットや学内 LAN を使った授業資料・課題の受けとりや提出	2.03	1.98	1.93	2.1	1.8	2.15	2.28
17	授業内容に刺激されて自主的にあらたな勉強や探究をしたこと	0.12	0.34	-0.02	0.27	0.38	-0.05	-0.27
18	教職員やアドバイザーに学修に関連したことを尋ねたり相談したこと	-1.26	-1.17	-1.28	-1.22	-0.95	-1.67	-1.27
19	大学内外で勉強会、研究会、講演会に参加したこと	-1.6	-1.52	-1.62	-1.55	-0.68	-1.64	-2.1
20	授業時間外に友だちと授業に関する学修をしたこと	0.01	-0.09	-0.08	0.36	-0.45	0.67	-0.25
21	学内に設けられている自由に学べる場の活用	-0.47	-0.42	-0.46	-0.08	-0.79	-0.67	-0.75
22	思いどおりに学業ができている実感	0.08	0.06	0	0.01	0.25	0.35	0.03

<設問の内容が否定的な設問群>

回答選択肢: 3:かなりよくあった、2:よくあった、1:たまにあった、-1:あまりなかった、
-2:ほとんどなかった、-3:まったくなかった

※赤塗りつぶし: 最も「経験しなかった」と回答した学部(学科)

青塗りつぶし: 最も「経験した」と回答した学部(学科)

設問 No	設問内容	全 学部	国 際 教 養 学 部	ス ン エ イ サ タ デ			医 学 科	看 護 学 科
				国 際 商 学 部	理 学 部	学 部		
2	大学での学修に関する不公平・不公正感	-0.78	-0.79	-0.54	-0.67	-1.00	-1.27	-0.80
10	履修したい授業を登録できなかったこと	-1.64	-1.15	-1.33	-1.89	-1.55	-2.57	-2.37
11	大半の内容が理解できなかった授業	-0.23	-0.54	-0.10	0.17	0.21	0.00	-0.48
14	提出期限までに授業の課題を完成できなかったこと	-1.55	-1.32	-1.44	-1.57	-1.29	-2.06	-1.94
15	授業に遅刻したこと	-1.26	-1.21	-0.98	-1.52	-1.18	-1.20	-1.70
16	授業内容がつまらなく感じたこと	0.94	0.98	1.07	1.03	0.76	0.74	0.76

(2)「入学時からの成長感」に関連する設問

回答選択肢:3:とても増えた、2:増えた、1:やや増えた、0:変化なし、-1:やや減った、-2:減った、
-3:とても減った

※赤塗りつぶし:最も「成長した」と回答した学部(学科)、
青塗りつぶし:最も「成長しなかった」と回答した学部(学科)

設問 No	設問内容	全学部	国際教養学部	スエーデン デ			医学科	看護学科
				国際商学部	理学部	学部		
23	教養	1.39	1.52	1.4	1.38	1.16	1.26	1.26
24	ものごとを分析する力	1.25	1.32	1.38	1.2	1.43	0.92	1.1
25	問題を論理的に考える力	1.22	1.34	1.32	1.17	1.25	0.82	1.14
26	特定の専門分野に関する理解力	1.51	1.44	1.51	1.57	1.64	1.24	1.78
27	肯定的な意味で批判的に考える力	1.14	1.4	1.13	1.01	1.05	0.86	0.94
28	自分と異なる意見や考え方を柔軟に理解する力	1.52	1.74	1.48	1.44	1.29	1.17	1.56
29	リーダーシップ	0.4	0.42	0.56	0.23	0.14	0.38	0.36
30	人間関係を築いたり調整する力	0.79	0.72	1.07	0.61	0.63	0.75	0.74
31	地域社会が抱える問題への関心や理解力	1.12	1.47	1.06	0.86	0.57	0.74	1.19
32	明快かつ簡潔に話す力	0.83	0.85	1.01	0.72	0.73	0.62	0.75
33	表現すべき内容の文章を書く力	1.13	1.3	1.24	1.08	0.79	0.73	1.06
34	英語以外の外国語の運用力	0.41	1.04	0.3	0.18	-0.18	-0.02	0
35	プレゼンテーションを準備し発表する力	1.41	1.49	1.57	1.64	0.84	1.06	1.2
36	学術的な文献の読解力	1.16	1.24	1.18	1.35	0.86	0.99	0.99
37	情報技術 (ICT) の運用力	1.32	1.18	1.38	1.58	1.59	1.14	1.3
38	国際的な諸問題に対する関心や理解力	0.98	1.41	0.99	0.78	0.57	0.59	0.65
39	英語の運用力	0.26	0.38	0.26	0.67	0.25	-0.25	-0.03
40	ものごとの本質をみて判断しようとする力	1.24	1.35	1.3	1.28	1.09	0.94	1.1
41	自分を律して行動する力	0.75	0.82	0.79	0.65	0.86	0.56	0.75
42	得た知識やスキルを活かして問題を解決する力	1.12	1.17	1.27	1.02	1.11	0.65	1.23

(3)①「学修にかかる時間」に関連する設問(1日あたりの時間)

※赤塗りつぶし:最も「回答時間が長い」学部(学科)、
青塗りつぶし:最も「回答時間が短い」学部(学科)

設問 No	設問内容	全学部	国際教養学部	スエーデン デ			医学科	看護学科
				国際商学部	理学部	学部		
43	授業時間以外に、授業に関する勉強をしている時間	1.88	1.93	1.49	2.32	2.16	1.66	2.08
44	授業とは直接関係のない勉強をしている時間	1.45	1.48	1.51	1.67	2.11	0.85	1.22

(3)②「アルバイト等にかかる時間」に関連する設問(週あたりの時間)

※赤塗りつぶし:最も「回答時間が長い」学部(学科)、
青塗りつぶし:最も「回答時間が短い」学部(学科)

45	クラブ・サークル等の課外活動時間(週あたりのみ)	2.52	2.18	3.14	1.71	1.56	4.23	2.17
46	アルバイトなど有給の仕事をしている時間(週あたりのみ)	9.74	10.56	11.38	6.45	9.10	6.59	10.94

(4)「教学に関わる満足度」に関連する設問

回答選択肢:3:十分に満足、2:満足、1:すこし満足、-1:やや不満、-2:不満、-3:かなり不満

※赤塗りつぶし:最も「満足度が高い」学部(学科)、

青塗りつぶし:最も「満足度が低い」学部(学科)

設問 No	設問内容	全学部	国際 教養 学部	ス ン エイ サ タ デ			医 学 科	看 護 学 科
				国 際 商 学 部	理 学 部	学 部		
47	大半の授業の質	1.16	1.21	1.03	0.99	1.2	1.38	1.26
48	授業の多様性	1.21	1.37	1.19	1.05	0.96	1.35	1.07
49	教育内容と将来の進路との関連性	1.12	0.82	1.07	0.85	1.26	1.45	1.85
50	カリキュラムの表現やシラバス記述のわかりやすさ	0.81	0.82	0.87	0.74	0.58	0.86	0.81
51	大半の授業に関して、その履修人数	1.65	1.54	1.59	1.63	1.65	1.76	1.91
52	図書館の蔵書内容、サービス、使いやすさ	1.07	1.13	1.03	1.19	0.88	1.01	0.98
53	総合的にみた大学での学び	1.12	1.15	1.04	0.97	1.14	1.34	1.15
54	奨学金など経済援助の制度と内容	1.06	0.94	1.05	0.97	1	1.1	1.45
55	授業や学習を支援する電子ネットワークシステム	0.89	0.84	1.01	0.9	0.44	1.03	0.86
56	実験・実習室や能動的な学修を進めるための設備や機器	1.12	0.84	0.96	1.51	0.62	1.45	1.38
57	一般的な教室の設備や使用感	0.91	0.9	0.87	0.96	0.72	0.94	1
58	学内の雰囲気や居心地、環境	1.36	1.38	1.33	1.38	1.17	1.48	1.32
59	学費に比した教育内容	0.57	0.42	0.36	0.71	0.48	1.17	0.73
60	学内に設けられている自主的に学べる場の雰囲気や使いやすさ	0.85	0.77	0.95	0.99	0.72	0.93	0.7
61	キャリアを考えるために役立つ授業や情報、機会の提供	0.94	0.95	0.94	0.75	0.78	1.08	1.08
62	学んだ成果に対する評価のされ方	1.17	1.17	1.21	1.08	1.3	1.3	1.09
63	教員の対応	1.37	1.43	1.21	1.17	1.55	1.47	1.53
64	事務スタッフの対応	1	0.87	0.99	0.9	0.54	1.04	1.51

(5)「在学中に希望すること」に関連する設問

回答選択肢:3:強く望んでいる、2:望んでいる、1:いくぶん望んでいる、-1:あまり望んでいない、
-2:望んでいない、-3:まったく望んでいない

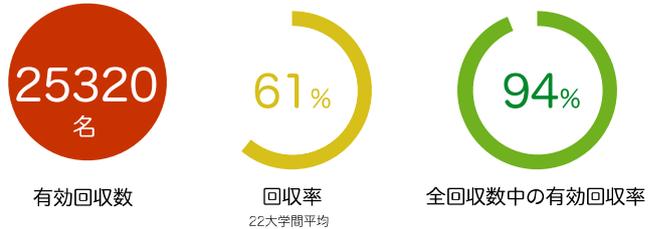
※赤塗りつぶし:最も「希望度が高い」学部(学科)、
青塗りつぶし:最も「希望度が低い」学部(学科)

設問 No	設問内容	全 学部	国 際 教 養 学 部	ス ン エ イ サ タ デ			医 学 科	看 護 学 科
				国 際 商 学 部	理 学 部	学 部		
65	専門分野の内容を十分に学ぶ	2.11	2.09	1.91	2.03	2.2	2.36	2.36
66	幅広い知識、教養を身につけ視野を広げる	2.01	2.25	1.97	1.93	1.86	1.83	1.84
67	起業やその意識形成にかかわる学びをする	-0.1	-0.08	0.57	-0.48	-0.05	-0.19	-0.85
68	企業、機関など大学外で体験実習、インターンなどをおこなう	1.33	1.73	1.63	1.17	1.41	0.43	0.69
69	チームなどで取り組むプロジェクト遂行型の学びをする	1.02	1.24	1.15	0.71	0.91	1.09	0.59
70	授業以外で学問的な関心事について学びを深める	1.4	1.62	1.38	1.46	1.54	1.16	1.03
71	討論やプレゼンの訓練になり課題解決をしていくような授業を受ける	1.22	1.48	1.45	1.03	1.23	0.9	0.62
72	資格を取得するための勉強をする	1.63	1.74	1.52	1.23	1.04	1.55	2.28
73	文章の作成能力が高まるような授業を受ける	1.39	1.68	1.48	1.32	0.98	1.01	1.07
74	外国語の運用能力を高めることを目的にした授業を受ける	1.2	1.76	1.25	0.98	0.63	0.98	0.48
75	卒業後の進路のために、教職員やキャリア関連の部署を活用する	1.1	1.36	1.26	1.23	1.11	0.32	0.67
76	よりよい学修計画を立てる	1.59	1.68	1.53	1.67	1.64	1.37	1.52
77	本学以外の教育機関・施設で学ぶ	0.34	0.38	0.31	0.39	0.4	0.43	0.14
78	なんらかのボランティア活動に従事する	0.66	1.17	0.38	0.06	0.34	0.75	0.7
79	短期の留学や海外語学研修に参加する	0.65	1.26	0.69	-0.15	-0.47	0.9	0.26
80	1年間程度、あるいはそれ以上の長期留学をする	-0.23	0.45	-0.13	-0.8	-1.16	-0.15	-1.04

大学間の中間活動体である教学比較IRコモンズでは、2015年からコモンズ参加大学において共通のウェブ・サーベイを用いた学修行動比較調査を実施しています。その結果は参加各大学において個別にそれぞれの目的に適った分析がおこなわれると共に、参加大学内で適宜有用性を判断しつつ比較分析・検討が施されています。ここでは調査実施母体である教学比較IRコモンズとして、個別大学に拠らず、有効回収基準を充たした全学生を総計した結果の一端について公開します。

今回は6年目の調査です。参加大学は22大学、当調査では最多の約2万5千名の大学生たちが寄せた回答結果から、またいくつもの発見と確認ができました。なお、他の結果や情報、方法の詳細についてはコモンズのwebページ（Google検索などで「教学比較IR」と）をご覧ください。

実査期間（全体） 2020年7月～21年2月
 調査実施方法 ALCS独自のスマート・ウェブ・サーベイ
 調査大学数 22
 有効回収数 25320
 有効回収とは80設問への回答率が60%以上等、ALCSの有効回収3基準を満たした回収
 回答者学年構成 1年生53% 3年生47% 1、3年生間での比率
 性別構成 男性17% 女性83%



この調査は、1、3年生を調査対象にすることを基本にしていますが、大学によっては別の学年でも実施しています。

参加大学（名称の50音順） 跡見学園女子大学 大妻女子大学 お茶の水女子大学 嘉悦大学 川崎医科大学 京都看護大学 京都光華女子大学 京都女子大学 共立女子大学 金城学院大学 就実大学 相山学園大学 津田塾大学 帝京大学 田園美術学園大学 東京女子大学 長崎県立大学 奈良女子大学 日本女子大学 フェリス学院大学 宮城大学 横浜市立大学

経験 大学の授業や学びに関する経験

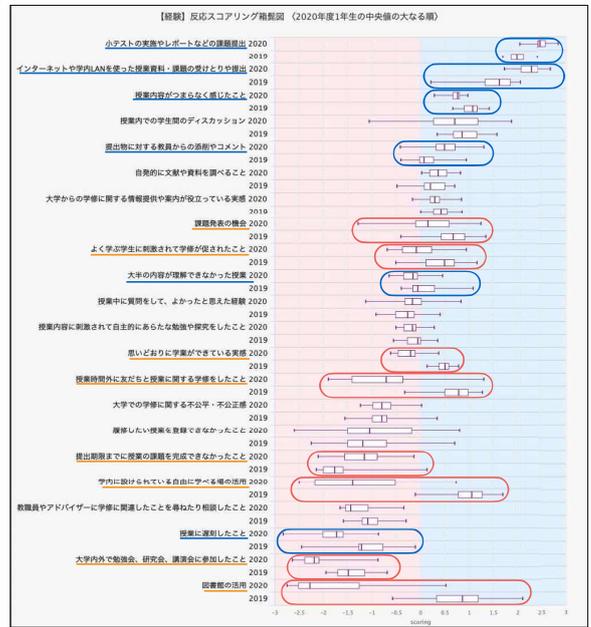
以下4つの設問群の箱ひげ図は、調査対象各大学の昨年度と今年度の1年生の各設問についてのスコアリング・データの平均値を用い、それらを今年度の中央値の大なる順に表示した結果です。例年、この比較図は1-3年生の学年間比較を提示してきました。しかし今年度はSARS-CoV-2の感染騒動により、大学の教学状況は例年と異なる変化に見舞われ、とくに1年生は大学での授業経験が端からまさにインターネット大学になったという状況でした。よってここでは今年度とそうした状況になかった前年度との1年生間の比較をとりあげました。

昨年度とのデータ構成は2大学のみが別の大学に入れ替わっただけの同数22大学でした（ただし学年の有効回収率が100未満の1ケースは当算定対象外）。箱ひげ図の特性を利用して、比較対の箱の部分が完全または、ほぼ重なりがなかったケースに明らかに差異を認めるという基準で、今年度の回答結果が教学のうえで一般的にみて向き方向に変化したところを青、その反対方向に変化した設問を赤色で囲って表現しました。

「経験」群では22設問中14、半数以上で明白な差異をみました。これらは教学経験上のことですから、今年度の事態を受けた結果としては必然といえるでしょう。ただし、差異が生じた14設問中の約半数6設問は肯定的な方向へのシフトでした。したがって、生じた負の事柄が肉肉にも教学経験上は、増すことが課題であったことをはっきりと前進させることになり、今年度の事態が一概に損失とはいえない面をもっていた、といえそうな結果になりました。

今年度、経験が明らかに増した項は課題提出の機会、そのためのネット利用、提出物への教員からの応答、遅刻せずに出席したことなど、遠隔授業、すなわちネット利用ならではの特性に伴う自然な効果といえることでした。ただし、注目に値するのは、授業をつまらなく感じた経験や理解できなかった授業が明白に減じたことです。しかし、これは堅い椅子にほとんど身動きせずに聴いている授業から解放されたことを反映しただけのことなのかもしれません。

一方、経験が明白に減少してしまった項は、在宅学修を強いられたことによる負の影響をそのまま映し出しています。これら正負の項の性質を相対（あいたい）して見比べると、必ずしも否定的なことばかりではなかった、と語ってしまうにはささか躊躇をおぼえそうです。



成長 入学時からの成長感

入学時に比した成長感を問うこの設問群に対する1年生の回答は、2年後の3年生時点での回答結果をみるための基準、いわばデフォルト値を得るためにあります。よって、ここでみる結果が全体に肯定域にあって昨年度の結果と差異がほとんど認められなかったこと、総じて箱の大きさ、ひげの長さも短くて大学間差異がほとんど認められなかったことなどの特徴は、入学してほとんど時間が経っていない1年生の反応としては至極自然なこととみることができます。

この状態から、大学での修学経験による成長感が、どの学生に、どのような設問ではっきりと得られるか、また大学単位ではその伸張の程度がどのような違いをもってあらわれてくるか、がこの設問群での見どころになります。

したがって、ここでは今年度の特異な教学状況の影響も、昨年度1年生との比較でほとんど認められませんが、デフォルト取得という意味では妥当な結果であったといえます。ただ、3項目については昨年度に比して明らかに違っていました。ネット利用授業で尽くされ、課題も頻出したことで、ICT運用力と表現すべき内容の文章を書く力が高まった感があつたようです。他方、在宅学修によって人間関係を築いたり調整する力を養う機会が損なわれたという当然の結果も確認できました。プレゼンの機会なども十分には確保できなかった様子が認められました。2年後の教学環境はかつての状況が取り戻されるはずですので、この全般に制約された状況から解放されたところの成長感が、いつもとは違ったかたちであらわれてくるかもしれません。



*スコアリング・データの生成法および箱ひげ図についての詳細はコモンズめウェブ・サイト <https://cmcr.jp/>の説明をご覧ください。

時間 日あたり、または週あたり平均値

授業に関する授業外の学修時間は、諸大学を平均すると数年前までは1時間前後という値であり、その伸張が大学における教学の一般的な課題のひとつとして語られてきました。それが日本の大学の現実の姿であるといったマスコミの言表もあったため、授業外にはほとんど勉強しないことが当たり前の振る舞い方であるかのようなおかしな共通認識が学生たちにも強く作用していたともいえます。それが強靱でありつづけたのはその認識のもとで行動し、あるいはそう応じることは、そうしないことよりも遙かに楽であったということもあるでしょう。

ただ、そうした解釈を乗り越えて、最近では単位制の実質化や授業外の学修が強調されだし、大学自身も気にしてその時間数を学生に問い続けてきたこともあってか、その値はALCSの調査結果をみていくなかで次第に伸びていくという事実を観察してきました。そして昨年度は授業に関する一日あたりの学修時間が、はじめて多くの大学の授業時間である90分を、1、3年生ともに上回るといった結果にいたったのです。それは大学生の平均像が、日々、1コマ分の授業相当の時間を、授業場を離れても勉強に費やしているということでしたから、素直に喜ばしいことであり、「勉強しない大学生」という社会通念の終わりがやっと訪れたといった観がありました。

今般の教学状況の異常事態は、その傾向をさらに強く後押しする結果となり、授業に関する授業外の学修時間は1、3年生共に一層大幅に増加、一日あたり2時間を超えました。これは他の設問への回答から読み取れるように、ネット学修で課題要求が大幅に増えたことが主因だったと思われます。在宅学修が教室で学ぶ感覚を損ね、基本的に授業外学修をしている気分を強めたこともあったかもしれません。これが能動的、自主的な学びという質の変容を意味しているわけではなさそうなのは、授業に関連しない学びの時間数については見事に昨年と変化しなかったところを読み取れます。また、今年度は社会経済活動の自粛が学生のバイトにも影響しているという話が少なからず立ちましたが、学生からの平均的な反応をみると、1年生には変化なく、3年生にやや減少傾向が見いだされたという程度に収まりました。

授業に関する授業外学修時間



授業に関連しない学習時間



アルバイトなどの就労時間

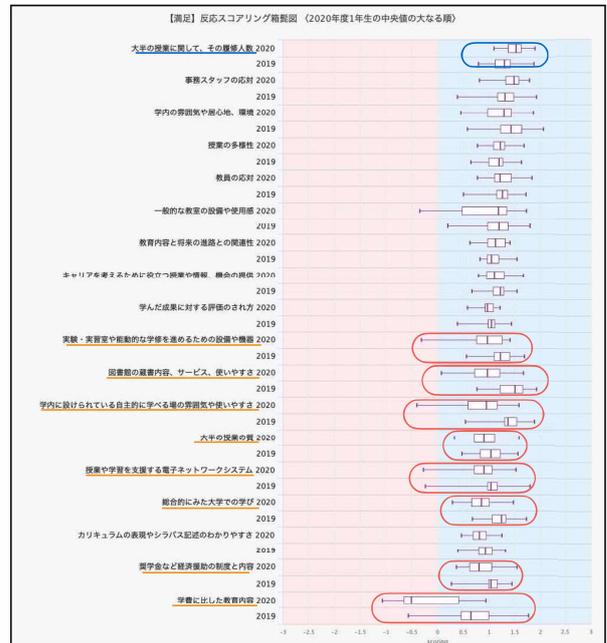


満足 教学に関わる満足度

「満足」群の設問で大半の項が昨年の1年生よりも今年の1年生のほうが満足できたという回答が、としたりおごとでした。大学設置基準は現実に即して大幅改訂を迫られたにちがいありません。しかし、さすがにそれはなく、履修人数への満足度が高まった（在宅受講はいつも一人で受講しているも同然です）こと以外は、満足度は変化なしか、下落しました。

在宅学修を強いられるため設備面での満足度は高まりようがなかったため、それらはおいておくとして、まず「総合的にみた大学での学び」あるいは「大学の授業の質」において明白に満足度を低下させたことが確認できます。これは今年度の大学生が地球規模で等しく被った損失を端的に示しているといえるでしょう。ただし、グラフをよくみると「大学の授業の質」において、ひげの肯定方向の端点が、昨年度と変化しておらず比較的高い満足度を示している大学もあったことは注意がいらそうです。これが同一大学におけることなのか、入れ替わった結果なのかはこのかぎりでは不明ですが、遠隔主体ないし全体であった授業も、質という点では、従前の授業に比して満足度を劣化させることまではいいきれないようです。

十分に納得できる結果としてある「学費に比した授業内容」という結果、これは8割方の大学の平均的な回答について昨年度までは肯定的な回答を得ていましたが、今年度は一転して否定的な回答を得ました。これは当然、授業以外にもキャンパス施設の利用や、共に学ぶ学生たちとの交流機会なども含めた学費コストに対するパフォーマンス評価としてみるべきなのでしょう。



希望 在学中に望むこと

学生たちが在学中の学修において「最も」望んでいること、むしろそれはこの限られた数の設問のなかでの話ですが、時（調査年度や学年）と場所（さまざまな大学）によらず一貫して同じです。「幅広い知識や教養を身につけ視野を広げること」そして「専門分野の内容を十分に学ぶ」ことです。あまりにも保守的、伝統的、それだけに陳腐ともいえるようなこの希望の表明はしかし、大学に対して直接の受益者が求めることは、時代を超えて一般性、普遍性があるということなのでしょう。

今年度の教学状況の特殊性は、このほとんど変わることのない学生たちの望みを一層際立たせることになりました。すなわち常に1、2ランクで高い希望が示されてきた上記の二項は昨年度より一層に、というわけではありませんでしたが、高まりをみせました。点線で囲ったこの箱ひげの形状で確認できるように、おそらく回答スケールの天井に接近しているとみられます。それはひげの肯定方向の端点がほとんど変わらない一方で、箱自体は両者とも今年度は一層縮んでおり、大学間にあまり差異がない状態になっていることから読み取れます。換言すれば、どの大学でもほとんどの学生がこの2点を強く求めており、今回の教学状況の変容は、その大学としてあるべき基本の姿をあらためて求める結果を導いたということなのでしょう。

それに対して、政策的には大学に対して強く求められてきたにもかかわらず、例年、学生全体としては希望が最も弱かった「留学」に関しては、今回の状況がまさにそれに正面から水を差すものであったこともあり、より明確に大半が望んでいないという結果に落ち着きました。



(編集・文責: 教学比較IRコモンズ 東京)

令和3年度教学 IR 検討の取組結果と今後の課題について

1. 趣旨

令和3年度に実施した下記取組について、実施報告書を作成し、各種会議体で報告します。また、平成30年度から実施してきたWGの取組において挙げられた課題についても整理し、来年度開設予定の高等教育推進センターの教学IR部門の運営をふまえ、関係所管と調整します。

2. 教学 IR 検討 WG で実施した取組について

(1) 入学から卒業後までのアンケートをつないだ経時的な分析

<取組概要>

平成30年度から引き続き、「新入生アンケート（入学時実施）」、「カリキュラム評価アンケート（卒業時実施）」、「卒業生アンケート（卒後3年に実施）」の3つのアンケートを設定し、本学が特に重視する教育理念に関する共通の設問への回答結果について分析した。分析結果について、入学時と卒業時の回答結果から、本学が掲げる教育理念が入学時に期待したほど卒業時に身についたと感じている学生が少ないことがわかった。また、分析結果について、各種会議にて報告を行うとともに、結果を各学部教授会での報告・共有し、各学部におけるカリキュラム改善検討を支援した。

(2) 教学 IR 検討 WG における認証評価に向けた対応

<取組概要>

大学機関別認証評価受審のために、平成30年度に設定した3つの観点について、解析及び課題解決に向けた検討を進めた。教学IR検討WGにて解析した結果を各学部教授会で報告・共有し、各学部それぞれの課題が確認された。

① 「各授業の内容が授与する学位に相応しい水準となっていること」

<教学 IR 検討 WG で取り組む3つの観点>

- ① 「各授業の内容が授与する学位に相応しい水準となっていること」
- ② 「成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることの組織的確認」
- ③ 学修成果の可視化

→ 令和3年度授業評価アンケートの結果を過年度の結果と比較した結果、令和2年度にはオンライン授業の導入により、授業外学修時間が増加していたが、昨年度と比較して授業外学修時間は減少傾向であることがわかった。また、授業外学修時間が多い層と少ない層の差が開いていることがわかった。

② 「成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることの組織的確認」

→ 令和3年度前期の成績分布を作成し、令和2年度から引き続き対面・オンラインで授業が実施されている現状分析を行った。

・語学関連科目において、全面オンライン授業であった令和2年度と比較して、GP 平均値の低下が大きい科目があった。

③ 学修成果の可視化

- 来年度より導入する LMS に実装する YCU 指標について、各項目の整理を進めた。
 - ・レーダーチャートの YCU 指標(国際総合科学群学生用)では、「各学部独自項目」の記載について検討し、「学部独自項目(専門的理解)」と標記することとした。
 - ・「学部独自項目(専門的理解)」の注釈を学部ごとに作成し、レーダーチャートの脇へ標記することとした。

(3) ALCS 学修行動比較調査の実施及び分析

<取組概要>

学生データの効率的な収集及び他大学との比較のため、令和元年度より教学比較 IR コモンズに入り会いし、令和3年度も1年次、3年次の学生に対しアンケート調査を実施した。令和3年度は令和2年度の調査結果について分析を実施し、これまでに本学で実施している各種アンケートでは確認できなかった観点について、学生の主体的な回答が得られた。

「英語の運用能力」に関する設問について成長したとする回答、「短期・長期海外留学を希望する」という回答が他大学と比較して10%程度多いという結果が見られた。

3. 教学 IR 検討 WG で挙げられた課題について

(1) オンラインで実施するアンケートの回収率について

本学がオンラインで実施するアンケートの回収率が低下傾向にあり、データの信頼性という観点から、教学 IR の活動に影響を与えている。(一方で、カリキュラム評価 アンケートや新入生アンケート等、回収率が80%以上となっているオンラインアンケートも存在する。)

例) 卒業生アンケート(卒後3年の卒業生が対象) :27.4%(前回 26.6%)

国際総合科学群令和3年度授業評価アンケート:約3割(紙媒体での実施時は約7~8割)

(2) アンケートの実施頻度と設問の類似(重複)について

本学で実施しているアンケートは業務の必要性に基づいて各課や各センターで実施されており、アンケート回答期間や設問内容が十分に調整されておらず、学生の負担(アンケート疲れ)につながる可能性がある。令和4年度より高等教育推進センターが設置されることに伴い、各アンケートの集約・精査に関する審議を依頼することを検討する。

<国際総合科学群の学生が回答するアンケート>

1年次	2年次	3年次	4年次
授業評価アンケート(毎学期末に履修登録した科目数分実施)			
新入生アンケート	全国学生調査 (文科省)		・全国学生調査 (文科省)
ALCS 学修行動比較調査(他大と比較)		ALCS 学修行動比較調査(他大と比較)	・カリキュラム評価アンケート

※その他、在学中に回答を依頼するものとして、「学生生活アンケート(3年に1度実施)」がある。

(3)各学部の自己点検評価と教学 IR の連動について

これまで WG は認証評価の受審を見据え、3つの観点について全学的な取組を実施したが、来年度は各学部で実施する自己点検評価の取組と教学 IR の取組の連携も検討する。

(4)学生個人情報の活用に関する許諾について

令和4年度より LMS が導入されることにより、学生個人に関わるデータを活用することも考えられることから、各アンケートを実施する際に学生に対し解析計画を示し、目的を十分に伝える必要がある。

4. 令和4年度の方針について

これまで取り組んできた観点については全体の課題として令和4年度以降もモニタリングを実施し、新たに学部独自の課題抽出とそれに対する分析・改善策の検討を各学部のワーキングメンバーに実施・報告いただくことを検討しています。

